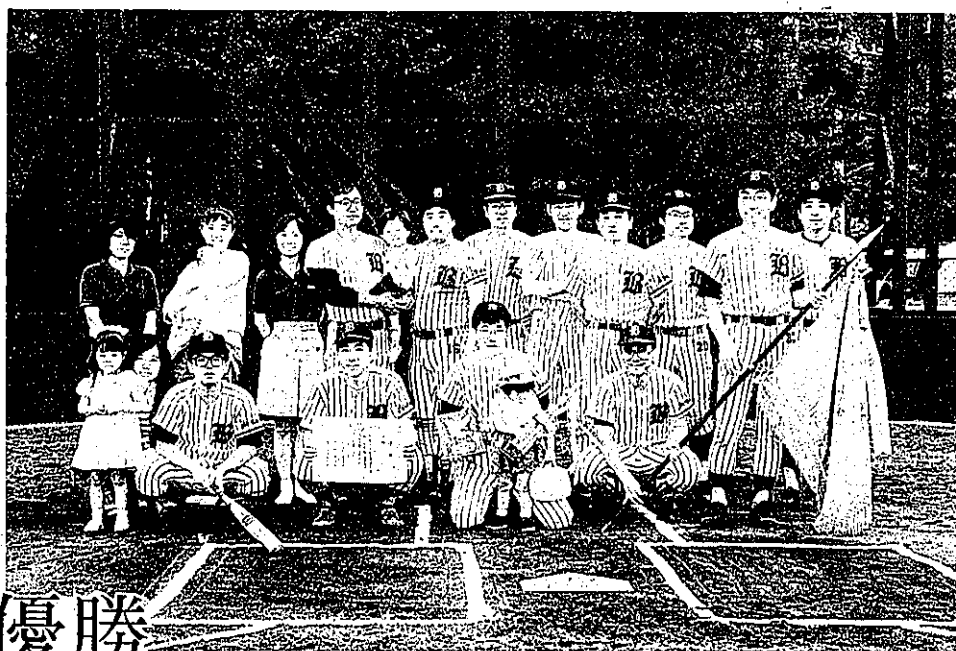


熱狂草野球軍団

BERMUDAS

400

試合達成記念!



優勝

1991年8月 品川区中央大会(2部)夏季大会にて

1994



バミューダズ400試合達成記念

目次

バミューダズの顔(写真集).....	1
巻頭言:草野球の最高レベルを目指して..... (監督: 北野博基)	3
選手, OB, マネージャー紹介.....	6
球団史: 400試合への歩み(1990年~1993年)....	7
技術論:貴方にもホームランが打てる..... (副監督: 渋谷和明)	17
400試合達成記念文集.....	21
(1) Baseball & I (国内在住選手).....	22
建部英敏, 北野雅基, 渋谷和明, 内山秀敏, 我如古昭一, 北野博基, 迫田和幸, 藤本和彦, 横田明佳, 飯田克美, 大橋洋行, 永嶋 仁, 宮島正博, 神谷 宏, 森 成美, 乗松圭太	
(2) 海の向こうのバミューダズ(海外赴任選手)....	32
奥 昭敏, 居山由彦, 永田 強, 宮嶋功明, 吉田 洋, 鍵田俊哉, 塩瀬正明, 八尾雅之	
記録のページ.....	39
(1) 1990年~1993年の記録.....	40
(2) 1976年~1993年通算成績.....	44
あとがき.....	47

バミューダズの顔

春・夏の合宿



伊豆の春合宿: 3月初旬、暖かい伊豆でシーズン・イン
88年から「山ゆり」と伊東市営球場に定着
(93年3月撮影)



佐久の夏合宿: 9月初旬、秋の決戦に向け腕を磨く
「佐久ホテル」とは79年以来のおつきあい
佐久市営球場、千曲錦グラウンドもおなじみ
(90年9月、佐久市営球場にて)

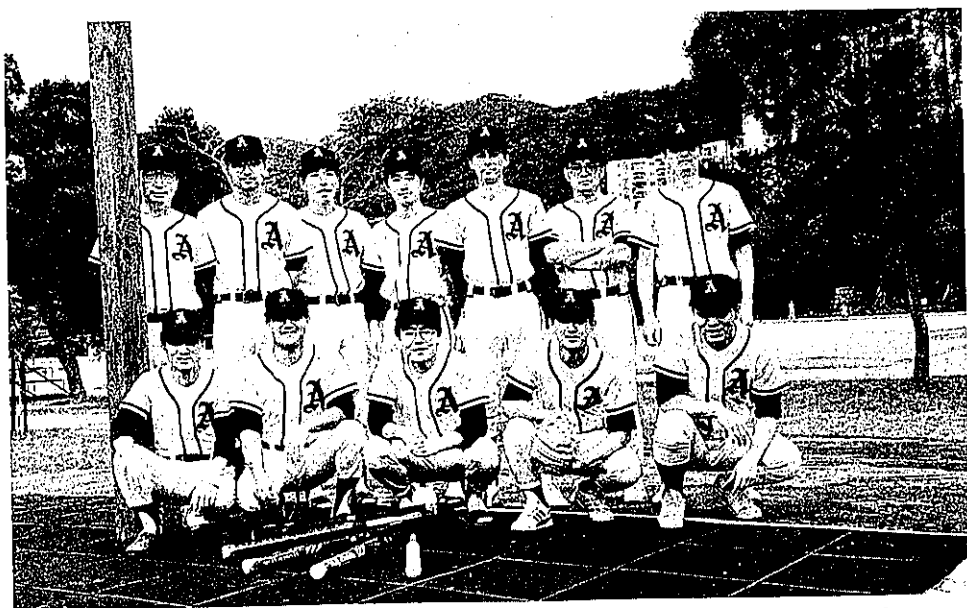
海の向こうのバミューダズ

同じ地球の空の下、バットとボールがあれば野球はできる
 野球がダメでもソフトボールがある。
 バミューダズ魂の伝道師は今日も白球を追いかける

HKは快晴で野球 ぴんぽんす。
 明日からこちらのソフトボール
 リーグの試合 (3リーグ制) に参加し、
 全通試合があります。



香港日本人会ソフトボール・リーグの試合にて(93年春: 香港天光道球場)。
 前監督塩瀬選手、会心の一撃。



香港で塩瀬選手が所属するソフトボール・チーム「Attackers」のメンバー。
 後列左端が塩瀬選手。(93年11月、新ユニフォーム披露記念)

草野球の最高レベルを目指して

監督 北野 博基

1. 熱血草野球集団の誇り

1976年にチームが結成されて18年が経過しました。今年、通算400試合を達成し、この度4冊目の記念誌を発行するに至ったことを、バミューダズの関係者すべてとともに喜びたいと思います。たかが草野球とは言うものの、これほど長期にわたり毎年平均して20試合以上のペースで続けてきたことは驚きに値すると同時に、ひとりひとりのメンバーにとっては誇りであります。

プロ野球や社会人野球、あるいは学生野球とは違い、趣味の延長にしかすぎない草野球に於いては、これだけの試合を行うことは並大抵のことではありません。長期間続けられればいつかは達成できる記録ではあっても、これほどの期間にわたり続けて来たことは素晴らしいことです。

そのうえ驚くべきことは、創設時のメンバーが今も現役で活躍していることです。もちろん毎年若いメンバーを迎えてはいますが、創設時のメンバーを始めとする長老組は、依然若手には負けじと自己鍛練に励んでいるようです。プロ野球には引退がありますが、我々のチームには、引退はありません。老若相励ましあって、さらに前進していきたいと、考えています。

2. 感謝の気持ちを込めて

ほとんどのスポーツと同様に、野球も相手があって初めて成立するゲームです。いくら自分達に熱意があっても、相手になってくれるチームがいらないことには、400試合の偉業は達成することはできません。

その意味において対戦相手となってくれたチームのすべてに、心から感謝したいと思います。その中でも、これまで何度も対戦し良きライバルとして目標にしてきたチームもいくつかあります。これからも長きにわたり、切磋琢磨していきたいと考えていますので、おつきあい頂きたいをお願い致します。

また、試合の応援に来てくれたファンの皆さんに対しても、厚くお礼を申し上げます。選手は、応援が多いと自然と良いプレーをするものです。バミューダズのメンバーはみな、単純、いや純朴ですので、特に若い女性が応援に来てくれると、一層張り切ってプレーをします。

幾度にもわたるファンの皆さんの応援が、今のバミューダズを育て上げたと言えましょう。これからも一層の応援をお願いします。

さらに恒例となった春夏の合宿でいつもお世話になる「佐久ホテル」のおかみさんや、伊豆の貸別荘「山ゆり」のおばさんも、チームにとっては忘れてはならない協力者です。

合宿に於いては、連係プレーやベースランニングなど普段できない基本練習を中心にして、個人のレベルアップを目指しています。また、夜遅くまで続く宴会の場で、それぞれの野球観について真剣な議論を交して過ごす合宿は、バミューダズにとってチームの基本理念を再確認する大事な機会になっています。

そして何よりも最大の感謝の気持ちを、家族の皆さんに伝えたいと思います。休日になると毎週のように、朝早くから野球に出かけるメンバーの姿を恨めしく思いつつも、そっと見守り続けて下さった皆さんのご協力なくしては、この偉業は達成できなかったことと思います。

その意味に於いて我々は、メンバーの家族の皆さんが最大の功労者であると考えています。

私は最近、私を含めて、メンバーがバミューダズというチームに抱いている情熱は『病気に似たようなものではないか』と思い始めました。それもことによると『不治の病』かも知れません。

けれど心配はいりません。この病は良性の病です。体を動かし、仲間とともに共通の目的に向かって一瞬一瞬に全力を尽くすわけですから、決して悪性であるはずがありません。無理にこの病気を直そうと考えず、『是非気長におつきあい頂きたい』とお願いしておきます。この喜びを奪い取ってしまうと、それこそ本当の病気になってしまうような面々ばかりですから。

3. 大きな勲章——品川区大会優勝

今回の記念誌は1990年から1993年までの4年間の試合記録を中心に編集されました。この4年間の成績で特筆すべきは、1991年の品川区2部大会での優勝です。8月25日の明電舎との決勝戦を、建部投手の力投とこれに応える選手全員のチームワークで、2対0のスコアで勝利し、見事優勝旗を手にすることができました。あのときのずっしりとした優勝旗の手応えは、今もって鮮やかに覚えています。

この優勝の結果我々バミューダズが品川区の代表として、東京都大会に出場することになったのですが、日程が平日に組まれてしまった関係で選手が集まらず、不戦敗となってしまったことは残念でした。都大会のレベルがどんなものかを肌で感じてみたかったものです。しかし会社を休んでも出場しようとしたメンバーが7人ほどいたことは、バミューダズの本領発揮でも申せましょうか。

オーシャンリーグに於いては、89年の優勝のあと2年間苦杯をなめましたが、1992年には、見事に宿敵レコーズを破り通算5度目の優勝を果たしました。1993年は残念なことに、準決勝で敗退しましたが、これからも常に、リーグのトップレベルチームとしての自負とともに、その実力を維持しつつ、一層の精進に努めていきたいと考えています。

この他にも、日産グリーンカップなどに継続して挑戦していますが、1990年の東京都本大会4回戦進出(ベスト32)を最後に、いまひとつ力及ばず敗退しています。砂ぼこり立つ真夏の三郷グラウンドがだんだん恋しくなってきました。

4. 強さに磨きをかけるには

バミューダズは特異なアマチュア野球チームである、とすることができるでしょう。野球に取り組む姿勢が、中途半端ではありません。毎試合スコアをつけ、チーム記録はもとより個人記録の集計を行い一層の上達を目指す姿勢は、趣味の域を越えているとしか考えられません。

そして更に年末にはその記録に基づき、著しい活躍をみせたメンバーを表彰することになっています。表彰されるといっても記念として小さなトロフィーを貰うだけですが、最優秀選手や新人王として自分の活躍を認めてもらうことと、それに挑戦した自分自身の達成感をじっくりと味わうのが何よりも楽しみなのです。

記録にこだわり続けることが、個人の能力の向上に大いに役立っていることは間違いありません。この記念誌の巻末には、それらひとりひとりの輝かしい歴史がたくさんつまっています。

我々のチームには、学生野球を経験したメンバーは、片手で数えるほどしかいません。言い換えれば、野球の素人の集まりです。しかし、素人野球であろうとも、野球への熱意は誰にも負けないと自負する者ばかりです。素人野球ならば、その中での最高を目指して、日々努力を続けていきたいと思っています。自己の能力に対し挑戦を続ける姿勢こそが、チームの強さの原点ではないかと考えています。

5. 還暦野球の実現を夢見て

バミューダズでは一度入団すると、自ら引退を表明するまで、現役であり続けることができますが、齢を重ねるにつれて体力の衰えが、知らず知らずのうちに近づいて来るのも、止むを得ないことです。

これまで、野手の間を鋭い勢いで抜いていた打球は、ボテボテの内野ゴロになり、外野手の頭上を越えるはずの飛球も染々と補球されてしまうことが多くなります。盗塁を企てるもののあと少しのところで足がもつれて転びそうになったり、豪速球投手の看板も昔話になったりするものも仕方ないことと言えましょう。

その衰えをカバーするのが『考える野球』です。そして何よりチームワークです。失敗から教訓を学び取り再びミスを繰り返さないように心がけること、そして正しい野球理論を習得しピンチにも揺らぐことのない強いチームワークを育むことが大切であると考えています。

私は、昨年監督に就任して以来、『考える野球』の実現を呼びかけてきました。守備位置についたときは、自分のところに打球が来たらどうプレーすべきか、走者をひとつでも先の塁に進めるには、どのような攻撃をすべきかなどを、監督だけでなく全員が考えてプレーすることが大切だと思っています。

これは私の概念に於いては、いわゆる管理野球の正反対にある考え方です。管理野球に於いては選手は単なる歯車ですが、バミューダズが目指す野球は『自己主張を大切にする野球』だと思っています。ひとりひとりが野球を楽しみつつ、チームとして勝利を目指すのが、私の理想とする野球です。

野球通で有名な、慶応義塾大学の池井優教授のことが、ある新聞に載っていました。

今年58歳の池井教授は週に2〜3回バッティングセンターに通って打撃練習をし、その後スポーツクラブで水泳をして、体力維持に努めているそうです。

教授は、還暦を迎えるときは赤い野球のユニフォームで祝いたい、と話を結んでいました。バミューダズのメンバーと同じことを考えている野球好きがいるものだ、とほほえましく記事を読ませてもらいました。

400試合の次は500試合達成が、当面の目標になりますが、500試合も単なる通過点でしかありません。「還暦を迎えてもバミューダズで野球ができること」を究極の目的にしてこれからも野球を心から楽しんでいきたいものです。

家族の皆さん、ファンの皆さん、これからも声援をよろしくお願いします。

そしてメンバーの諸君、グラウンドで会いましょう。

選手・OB・マネージャー紹介

名前	ポジション
4 北野 博基	監督・投手・内野手
17 渋谷 和明	副監督・内野手・投手
1 建部 英敏	投手・外野手・内野手
2 八尾 雅之	内野手
5 宮島 正博	内野手
6 前澤 功洋	内野手・投手
8 大橋 洋行	内野手・捕手
9 迫田 和幸	外野手・投手
10 藤本 和彦	内野手
11 鍵田 俊哉	捕手・内野手
12 伊藤 雅	内野手
13 永田 強	内野手
14 永嶋 仁	外野手・補手
15 飯田 克美	内野手
16 北野 雅基	捕手・外野手
18 我如古昭一	投手・外野手
19 内山 秀敏	外野手・内野手
20 吉田 洋	外野手・内野手
23 乗松 圭太	内野手・投手
24 徳光 始	外野手・補手
25 望月 昭秀	内野手
26 鈴木 満夫	外野手・投手
27 神谷 宏	外野手・内野手
28 外山 勝望	外野手・内野手
29 森 成美	内野手
30 塩瀬 正明	投手・内野手
横田 明佳	マネージャー・内野手
土田 英恵	マネージャー

寸評

監督をやって人格が丸くなってしまったと嘆いている
毎試合応援の混一くんを後継者に期待
★大エースも93年11月からシンガポール赴任
★トルコに語学留学中、94年春の復帰が待たれる
内野のキーマンとしての成長が期待される
若い、早い、うまい・・・期待の新人
★バ軍史上最強の打者も94年1月シンガポールに赴任
個性派バ軍の中でも個性的、打順1番四球王を目指す
試合があればどこまでも、怪傑黒頭巾は今日も行く
★サウジ赴任中：帰国中は試合に出てほしい
若手の一人、もっとたくさん出場してほしい
★中国・上海に赴任中
バ軍の外野はこの人がいれば鉄壁、審判としても絶大の信頼
最長老選手だが、気は若い。一塁守備は円熟の境地に
太い腕、重い腰、ホームベースはこの人にお任せ
★次世代のエースの期待がかかるが、94年2月に韓国赴任となる
ついにただ一人の創設以来の連続出場者に。
★香港赴任中：年間出場回数3試合が目標
本人の希望とは異なり、三塁手としての評価が高い
あの強烈な個性を復活させてグラウンドに戻ってほしい
シンガポールより復帰、今後の活躍が期待される
外野守備はプロ。しかし投手としての復活が期待される
入団1年で成長、バッティングも勝負強い
まだ若手の一人、たくさん出場してほしい
一塁守備に長足の進歩。財務長官としても厚い信頼
★香港赴任中：年間出場回数3試合が目標
サッカーと野球を両立させて腕をふるってほしい
ようやく健康を回復、これからの活躍に期待

		(選手	OB)	(マネージャー OG)	
奥 昭敏	(英国赴任中)	安藤 憲明	田中 啓介	高橋 京子	
宮嶋 功明	(ドイツ赴任中)	油田 久二雄	Tom Dickens	(旧姓土屋)	
居山 由彦	(オランダ赴任中)	神原 貞昭	西村 薫	加藤 久世	
金子 克之	(米国赴任中)	加藤 千武	鎌江 美親	(旧姓小美野)	
滝川 貞夫	(マレーシア赴任中)	浅井田 貫	横野 滋	中山 恵子	
松本 浩昭	(シンガポール赴任中)	内藤 由治	生永 直秀	(旧姓鈴木)	
樋口 謙三	(米国赴任中)	植山 周一郎	岡南 聡		
松本 哲郎	(大阪赴任中)	野村 尚文	若泉 浩司		
竹内 敏博	(名古屋赴任中)	佐々木よう子	谷川 治仁		
金子 治	(レコーズに貸出中)	小林 剛	坂本 裕司		
三浦 和夫	(レコーズに貸出中)	守屋 文彦	高垣 浩一		
岡本 直樹	(休部中)	Paul Fraker	高木 義博		
森田 厳徹	(休部中)	野村 茂	D. Kryskalla		
尾崎 毅	(休部中)	Marty Rath	吉武 和則		
榎並 隆	(休部中)	古川 遼人	鬼頭 英二		
		J. Youngblood	韓 研熙		

①① 400試合への歩み ①①

この4年間の主な出来事

- 1990 日産グリーンカップ 東京都大会・4回戦(ベスト32)に進出
品川区中央大会2部(秋)準決勝に進出
オーシャン・リーグ、準決勝で敗退
- 1991 品川区中央大会2部(夏)で優勝
オーシャン・リーグ、準優勝
- 1992 オーシャン・リーグ覇権奪回 3年ぶり5度目の優勝
品川区中央大会2部、春・夏ともにベスト8
北野(博)、塩瀬(香港赴任)の後を継いで監督に就任
- 1993 オーシャン・リーグ、準決勝で敗退
有力選手相次いで海外赴任、10人を超える

この4年間の表彰選手

- | | | | |
|------|---|--|--|
| 1990 | 首位打者賞
最優秀投手賞
ゴールデングラブ賞
スポーツ保険賞
達川賞
新人王 | 塩瀬 正明
建部 英敏
北野 博基
藤本 和彦
鍵田 俊哉
尾寄 毅 | 打率.411、打撃陣の牽引車
15試合に登板、10勝を挙げる
内野の要(遊撃手)で華麗な守備
勝利を呼ぶ流血の本塁突入・骨折!
名捕手、特に『口でする』野球は絶品
14試合、打率.429(規定打席不足) |
| 1991 | 最高殊勲選手
首位打者賞
カムバック賞
狂い咲き賞
新人王 | 建部 英敏
北野 雅基
大橋 洋行
居山 由彦
乗松 圭太 | 投打に活躍、品川区大会の優勝に貢献
捕手の重責を果たしながら打率.400
米国から7年ぶり見事カムバック
なぜかこの年だけ、打率.387(3位)
20試合に出場、オーシャン事務局長 |
| 1992 | 最高殊勲選手
家庭円満賞
塩瀬賞
新人王
特別監督賞 | 大橋 洋行
渋谷家一同
乗松 圭太
森 成美
建部英敏、大橋洋行、森 成美、八尾雅之、乗松圭太
渋谷和明、吉田 洋、永嶋 仁、内山秀敏 | 首位打者(.419)、勝負強さが光る
毎試合の家族の応援が勝利の源
球団運営に多大の貢献
打率2位(.412)、新人で首位打者争い
オーシャンリーグ覇権奪回の決勝戦に
出場したギリギリ9人のメンバー |
| 1993 | 最高殊勲選手
優秀選手賞
新人王
ハッスルブレイ賞
名球会特別賞 | 建部 英敏
永嶋 仁
我如古昭一
迫田 和幸
北野 博基 | 投打に活躍、首位打者(.438)
打率3位(.389)、打点王(13)
先発投手陣入り、2勝を挙げる
打率2位(.400)、ハッスルブレイ
衣笠賞(皆勤)・稲妻(イナズマ)賞 |

パシフィック・リーグ 1990年の戦績

日産GC 都大会4回戦進出

品川2部中央(秋)準決勝進出

33戦21勝11敗1引分(勝率.656)

	月/日	球場		スコア	対戦相手	投手	セーブ	備考
1	3/10	大井中央	○	4-1	JETRO	○建部		定期戦(通算9勝7敗)
2	3/25	天王洲	●	5-6	明電舎	●三浦		品川2部中央(春)1回戦
3	4/7	大井中央	●	1-4	レオバード	●塩瀬		オーシャン・リーグ
4	5/12	大井中央	○	21-0	パナソニック	○塩瀬		日産GC 予選
5	5/19	大井中央	●	2-5	エーコンズ	●宮嶋		オーシャン・リーグ
6	5/25	天王洲	○	5-0	ONE'S	○塩瀬	建部	オーシャン・リーグ
7	5/27	天王洲	○	4-2	J R 東海	○建部		品川2部中央(夏)1回戦
8	6/2	大井中央		ジャンケン勝	ビクトリーズ			日産GC 予選決勝
9	6/3	天王洲	●	1-2	ラングラーズ	●建部		品川2部中央(夏)2回戦
10	6/9	鶴の木	●	3-8	ダンディーズ	●塩瀬		オーシャン・リーグ
11	6/23	天王洲	○	16-1	日本経済新聞社	○塩瀬		
12	6/30	鶴の木	○	11-5	クリッパーズ	○塩瀬		オーシャン・リーグ
13	7/8	サンスポ	○	33-0	東京クラブ	○建部		日産GC 東京都大会 1回戦
14	7/21	大井中央	○	15-1	ハナエ・モリ	○建部		
15	7/21	品川青空	○	20-2	ロビンズ	○北野博		
16	7/22	サンスポ	○	7-0	ドルフィンズ	○三浦		日産GC 東京都大会 2回戦
17	7/28	サンスポ	○	6-2	三洋ANGELS	○三浦		日産GC 東京都大会 3回戦
18	8/5	サンスポ	●	0-2	オールブラックス	●建部		日産GC 東京都大会 4回戦
19	8/11	江戸川区営	○	8-7	丸文	○北野博		
20	8/12	天王洲	○	5-4	品川ロビンズ	○建部		品川2部中央(秋)1回戦
21	8/17	天王洲	●	2-12	コンスーマー営業	●塩瀬		
22	8/19	大井中央	○	6-2	イマジカ	○建部		品川2部中央(秋)準々決勝
23	8/25	江戸川区営	△	4-4	C I C			
24	8/26	天王洲	●	4-6	フレンズ	●建部		品川2部中央(秋)準決勝
25			□	不戦勝	カッセターズ			オーシャン・リーグ
26	9/8	鶴の木	○	8-0	エレファンツ	○塩瀬		オーシャン・リーグ
27	9/9	天王洲	○	10-0	クラシャーズ	○建部		品川区民大会(秋)1回戦
28	9/22	天王洲	○	6-5	テックメイツ	○建部		オーシャン・リーグ 準々決勝
29	9/23	大井中央	●	1-3	日本交通品川	●三浦		品川区民大会(秋)2回戦
30	9/29	多摩川緑地	●	2-11	レコーズ	●塩瀬		オーシャン・リーグ 準決勝
31	10/19	天王洲	●	0-3	早稲田大学政経学部	●建部		
32	11/17	天王洲	○	6-0	JETRO	○建部		定期戦(通算10勝7敗)
33	11/24	江戸川区営	○	4-1	早稲田大学政経学部	○建部		

通算339戦214勝94敗31引分(内、5不戦勝 4不戦敗)
1抽選勝

(勝率.695)

日産グリーン・カップ 4回戦で惜敗

暑中お見舞い申し上げます。

毎年熱い夏になると、老体

にむち打そ1ヶ月に5、6試合をこなすバミューダス。

日産グリーン・カップも東

京都大会へ進出。1回戦

33-0、2回戦7-0とコールド勝ち。3回戦は逆転の

6-2で駒を進め、180チーム

中ベスト32に入った。

しかし、4回戦の相手

は23、4歳の若者チーム。

速球投手3人のリレーの

前に、B軍は分負打の山。

最終回に主砲辻谷が1

安打し、ノーヒット・ノーランを

も迷わせた。に終わった。

1990.8.5

埼玉県三郷市

サンケイスポーツセンター

バミューダス

0 0 0 0 0 0 0 0

0 0 0 0 0 0 0 0

0 0 0 0 0 0 0 0

オール・ブレイクス

2 0

見どころは、バ軍エース建部の粘投

と、オールブレイクスの快力の対決だった。

毎回ランナーを出す苦しい展開ながら、き

う殺、盗塁阻止など何とかが0点で抑えて

きた。

しかし6回、その日一人だけ安打している

先頭打者鈴木に巧く打たれて左中間の2

塁打。無死2塁で、当然送りバント。

ピッチャーと一塁生の間にころがったバントを建

部(ピッチャー)がつかみ、しかし、グシッし捕ま

を越え、塩瀬一塁手が一塁に届かず内野

安打にしまった。そこから盗塁。無死2塁

となり、バックホーム体制。四番、五番を連続三

振とり、二死2、3塁となった。次打者もニストフ

Bermudas Times No.314

編集人:塩瀬 発行 1990.8.13

バミューダズ 1991年の戦績

☆品川2部中央(夏)優勝!! ★オーシャンは準優勝

26戦 18勝 7敗 1引1分 (勝率 . 720)

	月/日	球場		スコア	対戦相手	投手	セーブ	備考
1	3/10	天王洲	△	1-1	大井チカーズ	建部		品川2部中央(春)1回戦サドンデス勝ち
2	3/24	天王洲	○	7-2	明電舎	○建部		品川2部中央(春)2回戦
3	3/30	大井中央	○	6-3	東京入管	○塩瀬		
4	4/6	大井中央	●	1-6	丸文	●乗松		
5	4/13	多摩川緑地	○	12-0	ナイアンツ	○塩瀬		オーシャン・リーグ
6	4/20	多摩川緑地	○	6-0	ニューファイターズ	○建部		オーシャン・リーグ
7	4/20	大井中央	○	5-3	ベアーズ	○乗松	建部	
8	5/11	大井中央	●	5-6	First	●北野博		日産GC東京都予選1回戦
9	5/12	天王洲	●	1-4	三菱マテリアル	●建部		品川2部中央(春)準々決勝
10	5/18	江戸川区営	○	14-0	ドルフィンズ	○建部		オーシャン・リーグ
11	5/25	品川青空	○	8-2	レオパード	○北野博		オーシャン・リーグ
12	6/14	多摩川緑地	○	4-2	草加軍団	○建部		
13	7/21	大井中央	□	不戦勝	ソニー野球部			品川2部中央(夏)1回戦
14	7/21	大井中央	○	15-1	Warriors	○建部		
15	7/27	大井中央	○	10-0	JETRO	○建部		定期戦(通算11勝7敗)
16	8/11	天王洲	○	4-1	SMK	○建部		品川2部中央(夏)準々決勝
17	8/18	天王洲	○	6-1	ラングラーズ	○建部		品川2部中央(夏)準決勝
18	8/25	天王洲	○	2-0	明電舎	○建部		品川2部中央(夏)決勝⇒優勝!
19	9/01	佐久TDK	●	1-15	極山工業	●渋谷		佐久遠征・合宿
20	9/07	多摩川緑地	○	14-9	クリッパーズ	○乗松		オーシャン・リーグ
21	10/03	上井草総合	■					東京都軟式野球連盟大会1回戦(平日!)
22	10/05	江戸川区営	○	6-5	ベアーズ	○塩瀬		オーシャン優勝大会・準々決勝
23	10/19	品川区民	○	10-4	ルーマーズ	○北野博		オーシャン優勝大会・準決勝
24	11/02	天王洲	●	1-3	レコーズ	●建部		オーシャン優勝大会・決勝
25	11/16	品川青空	●	2-8	ライガーズ	●建部		
26	11/24	天王洲	○	4-1	明電舎	○塩瀬		品川2部中央(秋)1回戦

通算 365戦 232勝 101敗 32引1分 (内、6不戦勝 5不戦敗 1抽選勝)

(勝率 . 697)

the BERMUDA TIMES

No. 347

1991. 8. 28 発行

打順	投手	打者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
2	北野	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
6	北野	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
5	宮嶋	3	3	1	1	0	0	0	0	0	0	
7	大橋	3	3	0	0	0	0	0	0	1	0	
1	建部	3	1	1	0	0	0	2	0	0	1	
3	渋谷	2	2	0	2	2	0	0	0	0	2	
(3)	塩瀬	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
9	吉田	2	2	0	1	0	0	0	1	0	1	
(9)	迫田	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	
4	藤本	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	
(4)	永田	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	
8	永嶋	3	3	0	2	0	0	0	1	0	1	
B軍計			29	27	2	7	2	0	2	2	3	6
明電計			24	24	0	4	0	0	0	0	4	2

明電舎：松行一武富 BERMUDAS：建部一北野
3塁打：宮嶋(4回), 2塁打：渋谷(4回), 三塁打(6回)
失策：明電舎1, B軍0.

SONY代表だ!

品川区

優勝旗、優勝楯、杯授与される。

都大会へ進出

リーグ初優勝!

監督・エース 明電舎

宿敵

明電舎敗る

詳細はウラ面

BERMUDAS
0 0
0 0
0 0
0 2
0 0
0 0
0 0
0 2

念願の優勝で凱旋は
母夜叉酒と肉林か?

9月28日(土)29日(日)戦(下井草海合グラウンド)

4回二死2、3塁、7回二死1、3塁で追いつきのチャンスがあったが、強攻策でふいて試合を第2試合のものにした。
これまでに建部の熟年層と大橋の一振りで勝ち進んできたが、決勝戦は9月2日ドイツ赴任の宮嶋と昨日ベッソングセンターで千円分振った渋谷の長打で勝利をもぎとった。二人とも家族総出の応援に

燃えた。この他、大橋一家、ファン代表佐藤みかど、中野横田さんともども新馬場の「大富春」で祝勝会。
投手仲長永田がフライングゴロをさばく、迫田の動きが、ドローンとも良い。これからがたのしみだ。
都大会の抽選は9月24日(木)毎日新聞社で行われる。応援して下さい。
8月31日、9月1日合宿
都大会、オースチン決勝トーナメントに備え、佐久で定例の合宿を行います。
(文責 塩瀬)

パシフィック・リーグ 1992年の戦績

☆オーシャンリーグ、3年ぶり5度目の優勝！！

26戦 17勝9敗 (勝率. 654)

	月/日	球 場		スコア	対 戦 相 手	投 手	セーブ	備 考
1	3/08	伊豆小室山	○	14-4	横浜スパイラルズ	○塩瀬		春の伊豆合宿・練習試合
2	3/08		■	不戦敗				品川区中央大会2部91年秋大会2回戦
3	3/14	天王洲	●	3-13	エーコンズ+ドルフィンズ	●乗松		
4	3/22	品川青空	○	8-1	クラブ・フレンズ	○建部		品川区中央大会2部春大会1回戦
5	3/28	六郷橋緑地	○	11-0	パワーズ	○北野博		オーシャン・リーグ公式戦
6	4/19	天王洲	○	10-7	品川ロビンス	○北野博		品川区中央大会2部春大会2回戦
7	4/25	大井中央	●	5-7	J E T R O + B 軍	●渋谷		
8	5/05	天王洲	●	2-4	平成	●建部		品川区中央大会2部春大会・準々決勝
9	5/05	多摩川緑地	●	4-16	バットマン	●塩瀬		ニッサンGC 東京都大会予選1回戦
10	5/23	江戸川区営	○	19-4	アカツキ印刷	○塩瀬		
11	5/24	江戸川区営	○	16-3	テックメイツ	○建部		オーシャン・リーグ公式戦
12	6/06	多摩川緑地	○	12-1	O h t o r i	○我如子		
13	6/13	多摩川緑地	○	13-4	クリッパーズ	○塩瀬		
14	6/27	大井中央	○	3-1	ルーマーズ	○塩瀬		オーシャン・リーグ公式戦
15	7/04	しらこぼと	○	12-1	ラッキータイガーズ	○塩瀬		
16	7/11	江戸川区営	●	1-7	東洋エンジニアリング	●建部		塩瀬前監督香港赴任 壮行試合
17	7/25	天王洲	●	1-4	ソニーロジスティクス	●渋谷		オーシャン・リーグ公式戦
18	8/09	荒川自然	○	12-3	荒川メッツ	○建部		
19	8/22	天王洲	○	6-4	ベガーズ	○迫田		
20	8/23	品川青空	●	0-6	好 雅 堂	●塩瀬		品川区中央大会2部夏大会・準々決勝
21	9/13	佐久千曲錦	○	15-6	双信電気長土呂工場	○前沢		恒例、佐久の夏合宿(佐久ホテル)
22	9/23	大井中央	○	11-1	ドルフィンズ	○建部		オーシャン・リーグ公式戦⇒決勝大会へ
23	10/03	江戸川区営	○	5-1	エーコンズ	○北野博		オーシャン・リーグ優勝大会・準々決勝
24	10/17	多摩川緑地	●	2-5	ソニーブラザ	●乗松		
25	10/24	大井中央	□	不戦勝	ドルフィンズ			オーシャン・リーグ優勝大会・準決勝
26	11/03	八潮北	○	6-3	レコーズ	○建部		オーシャン・リーグ優勝大会・決り月券

通算 391戦 250勝 109敗 32引分 勝率. 696

(内、7不戦勝 1抽選勝 6不戦敗)

BERMUDAS TIMES

No. 378 (内山)

バミューダズ優勝!

オーシャン・リーグ

宿敵レコーズを撃破、3年ぶり5度目

13回オーシャン・リーグ優勝トーナメント決勝(11月3日、ハ潮地)

レコーズ	バミューダズ
0	1
0	0
0	2
0	0
0	1
2	2
1	X
3	6

勝投手 建部 5勝2敗 敗投手 三浦

首都圏草野球界注目の

一戦、バミューダズ対レコーズの

オーシャン・リーグ決勝戦は

11月3日、快晴のハ潮地球場

にて行なわれ、バミューダズが

6-3で快勝、3年ぶり5度

目の優勝をとげた。

バミューダズは建部の好投、

兼松、吉田珍の猛打、大橋

永嶋の好守、好走、墨などの

光り、レコーズの誇る黄金

投手陣、三浦、金をも打ち

崩した。

★★★
建部好投、無四球試合

★★★
決戦前日、香港に赴任した

塩瀬前監督より、激励の

下メが届いた。バミューダズが

優勝しなけいば、彼の仕事

は進展しないのだ。

決勝戦は、バミューダズが終

始、主導権をとりつづけた。

守るは建部の好投が光る。

四死球など一度も出さず、長

打も殆んど打たれない。大橋

も、チャーフライは先ず捕

5回までレコーズを無得点に
抑え、完封の期待まで広がる。

★★★

永嶋、大橋の好走、墨でリード

★★★

攻めでは、速球にややカゲリの

みえる三浦に毎日安打で

攻めた。

一回裏、永嶋、渋谷の連打、

大橋死球で早くも二死満塁の

チャンス。建部の二塁手強襲の

ゴロで永嶋スタート良く生還、

先制の一点を挙げた。

三回表、エラーで出塁の大橋は

二盗、三盗を決め、次打者建部

のセカンドゴロでスタートよく

イン(二点目)、さらに兼松のレフト

オバの二塁打が出て一死二三

塁、森のファストゴロで建部が

三本塁にはさすん二死二三塁と

ファミリリーグズ 1993年の戦績

オーシャン連覇成らず

11年連続ベスト4

21戦 10勝 8敗 3引分 (勝率 . 555)
(内、不戦敗1)

	月/日	球場		スコア	対戦相手	投手	セーブ	備考
1	3/07	伊東市営	●	13-19	横浜スパイラルズ	●乗松		恒例、伊豆の春合宿(山ゆり)
2	3/20	品川青空	●	1-2	JCT	●建部		品川区中央大会2部(春)1回戦
3	4/10	大井中央	●	2-10	レコーズ	●我如古		
4	4/17	東京高専	○	15-3	テックメイツ	○建部		オーシャンリーグ公式戦
5	5/15	大井中央	○	15-1	ハナエモリ	○建部		ニッサンGC都大会予選2回戦
6	5/22	大井中央	○	13-0	パワーズ	○北野博		オーシャンリーグ公式戦
7	5/29	ソニー厚木	△	3-3	レッドターキーズ	——		
8	5/30	大宮健保	●	1-7	バットマン	●建部		ニッサンGC都大会予選準決勝
9	6/05	東京高専	○	5-3	東京化成品	○我如古		
10	6/19	大井中央	○	21-6	ドルフィンズ	○迫田		
11	7/10	天王洲	△	4-4	エイコンズ	——		
12	7/31	稲毛海岸	■	不戦敗	ナイアンツ	——		オーシャンリーグ公式戦
13	7/31	稲毛海岸	△	1-1	ナイアンツ	——		
14	8/21	多摩川緑地	○	8-4	ハンダース	○北野博		オーシャンリーグ公式戦
15	8/22	天王洲	●	4-10	SMK	●我如古		品川区中央大会2部(夏)1回戦
16	9/12	佐久市営	●	0-6	サイバネ	●我如古		恒例、佐久の夏合宿(佐久ホテル)
17	9/25	大井中央	○	12-0	エレファンツ	○我如古		オーシャンリーグ公式戦
18	9/25	大井中央	○	10-0	エイコンズ	○建部		オーシャンリーグ公式戦⇒決勝大会へ
19	10/02	大井中央	○	18-0	ルーマーズ	○北野博		
20	10/16	大井中央	○	4-3	ベッガーズ	○建部		オーシャンリーグ決勝大会 準々決勝
21	10/23	大井中央	●	1-4	テックメイツ	●建部		オーシャンリーグ決勝大会 準決勝

☆☆(引分後、サドンデス・プレーオフ: ☆勝★敗)

通算 412戦 260勝 117敗 35引分 (内、7不戦勝・1抽選勝・7不戦敗)
(勝率 . 690)

オーシャンリーグ決勝大会進出を決める

エーコンズに10-0で大勝

エーコンズ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
バミューダズ	0	0	6	4	0	0	X	1	0	0

§ 建部 1 安打無四球

§ 完封で今季 3 勝目

§ 北野(博)満塁一掃の

§ 先制 3 塁打

1993年9月25日 大井スポーツセンター D面

勝利投手: 建部

3 塁打: 北野(博) 建部

2 塁打: 永嶋

<建部 快投 11奪三振>

オーシャンリーグの勝点不足のため決勝大会への進出が危ぶまれていたバミューダズは、この日朝9時からのエレファント戦に勝利し連勝を目指しエーコンズと対戦。エレファントを12対0で破った勢いのまま、エーコンズを10対0の大差で退けた。投手建部は4回まで三人ずつ完ぺきにおさえ、5回先頭打者に安打を許したものの後続を打ち取ったあと、6回7回も三者凡退の見事なピッチングを披露し、合計で11三振を奪う快投をみせた。これで今季3勝目をあげ通算勝利数を79とし、塩瀬を抜き単独トップになった。

<打撃爆発 10安打 10得点>

序盤は淡々としたゲーム内容で進んだが、3回裏のバミューダズは1死満塁の先制機を迎えた。2番打者藤本はこのところ打撃不調。初球を真上に打ち上げ危うくキャッチャーに捕られそうになったがファウルとなり命拾い。ここでスクイズで確実に得点することを狙ったが3塁走者森のスタートが遅れて本塁で封殺され失敗。続く3番打者の北野(博)はセンターの頭上を抜く3塁打を放ち三人を迎え入れ先制、送球が乱れる間に本塁に生還した。その後も失策で出塁した渋谷を2塁において建部が適時打を放ち、永嶋も続いてこの回打者10人の攻撃で大量6点を入れた。

4回裏も勢いが衰えず、一死後内山は3塁線を破る安打で出塁し、迫田の安打及び相手投手の暴投で進塁したあと、宮島の内野ゴロエラーの間に1点追加。北野(博)が四球で出塁のあと二死となったものの満塁で建部が3塁打を放って10点目をあげ、勝利を決定的にした。

<迫田 打撃絶好調 首位打者狙い>

このところ迫田の打撃が絶好調である。佐久合宿以来このゲームでの3安打を含め3試合連続で安打を放ち、12打席9打数5安打3四球の素晴らしい成績をあげている。その結果今季の打率を4割6分7厘にし規定打席まであと1つに迫った。

なお、その後10月2日のゲームにおいて迫田は規定打席を満たし、一気に首位打者に躍り出た。2位は4割4分8厘の建部、3位には4割1分9厘で永嶋が続いている。

この日は、渋谷家の一家ならびに法務部の増田さんと鈴木さん、久々に出場した前沢のファンの林さんが応援に来てくれた。

バミューダ・タイムズ

第364号 文資・永嶋

92年5月30日
江戸川球場

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	計
バミューダーズ	2	0	2	3	3	2	2		16
テックメイツ	0	0	0	1	0	0	2		3

勝 建部
敗 岡村 (テ)
本塁打 渋谷
三塁打 川谷 (テ)
二塁打 藤本 2
森
丹羽 (テ)

渋谷 江戸川球場で大本塁打

B軍ここぞ乱れ打つ

藤本 左へ3安打 (2二塁打)

北野兄弟 5安打3四球

満願・森 3安打一発つも

江戸川球場にテックメイツを迎えて
行われたオーシャンリーグ2回戦は
渋谷の本塁打を含む15安打と猛打
爆発、投げてはエース・建部が3点に
抑さえ16対3で快勝した。

この日のハイライトは江戸川球場
の左翼をオーバーフェンス (90m)
した渋谷選手であった。

藤本・北野雅・森の3安打も
みごとであった。



この子のお父さん
が打ちました。

7

打	守	氏名	1	2	3	4	5	6	7
1	4	藤本	三・左	二・左	二・左	二・左	三・右	四・球	
2	5	堀越	三・右	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右	三・右
3	1	坂加子	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右
4	6	建部	四・球	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右
5	3	北野博	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右
6	2	北野雅	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右
7	9	内山	三・右	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右
8	8	永嶋	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右
9	7	尾崎	三・右	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右	二・右

貴方にもホームランが打てる！

副監督 渋谷 和明

ここに紹介することになった技術論は、幼い頃から長年野球に携わり、バミューダズ入団以来まだ一度もホームランを打ったことがない人、1本目は何とか打ったが2本目のホームランが打てない人、何本も打ったがランニング・ホームランしか打ったことがない人に送るものです。

私はバミューダズに入団して10年以上になり、毎年コンスタントにホームランを放ち、計10数本になりますが、どちらかと言うとランニング・ホームランは少ないと思います。

特に印象に残っているホームランと言えば、江戸川球場のスタンドに放り込んだ一打と、大井スポーツ・センターでの最終回に放った同点満塁ホームランの一打などが思い浮かびます。

元々私は、ホームラン・バッターではなかったし、それほどホームランを打ちたいとも、思っていませんでした。

ところがある日、足で稼ぐランニング・ホームランでなく、誰もが納得し、誰にも文句を言われず、誰にも邪魔されない、フェンス越えのホームランを打った時から私は人が変わり、ホームランにこだわるようになり、憧れるようになってしまいました。

そして今、私が味わったホームランの味をバミューダズのメンバーにも是非味わってもらいたいと思うのです。それも全力疾走することなく、打った瞬間の感触を何度も確かめるように、ゆっくりとダイヤモンドを回る気分を、是非一度体験してもらいたいのです。

私もそうでしたが、フェンス越えのホームランは、麻薬のように草野球人の野球観を大きく変えてしまう魔力を秘めているようです。

では、一体どうすればフェンス越えのホームランを打つことができるのか・・・その答えは「正直なところわかりません」。また、狙っても打てるものでもありません。また草野球では身体の大きい人、腕力の強い人ばかりがホームランを打てるわけでもありません。

現に私だって、それほど身体が大きいわけではないし、腕力が強いわけでもないし、×××がそれほど「でかい」わけではないのですが、ホームランは打てます。

逆に私と比べて身体が大きく、腕力が強く、×××が「でかく」ても、ホームランを打てない人は沢山います。

つまり、単に大きい、小さい、強い、弱い、の問題ではないので、誰にでも可能性はあると思います。

では、どこが違うのでしょうか。何がホームランを生み出すのでしょうか。その疑問に答えるべく、今回は私が打席に入る前、また構えてスイングするときに、常に心掛けていた点および意識している点を、いくつか紹介して簡単に解説したいと思います。

【1】打球は身体回転

(ボディ・ターン)で打て

外人のように、丸太のような腕をしている鉄人なら話は別ですが、標準的な日本人は腕力そのものより、身体回転力のほうが遥かに強いはずで

逆に身体回転力よりも腕力のほうが強すぎると、手だけでバットを振ってしまい、腰の回転が遅れて、俗に言う「手打ち状態」になってしまい、重心も前に流れてスイング自体のバランスを崩してしまうことになります。

ここでは、身体を止めて手を振るのではなく、頭と背筋の位置を変えずにまず身体を回転させること、そして身体回転に伴って手が付いてくることをイメージして下さい。

つまり、身体回転軌道中に手に持ったバットで球を捕えるイメージです。この場合、それほど力を入れて身体を回転させる必要はなく、ある程度のスピードをもって、スムーズに身体を回転させることが大切となります。

☆誰ですか、身体を回転させて怪傑黒頭巾を振っているのは・・・何はともあれ「身体回転は力なり」であります。腕力の無い人でも大丈夫。

【2】(左腰、左肩)左腕、左手主導で スイングしろ(左打者の場合は右手)

ここでは右打者について述べますが、左手は身体の回転力と一体でスイングのパワーを生み出すために、右手はバットをコントロールするためにあると考えてほしいのです。

従ってスイングを速く、力強く、スムーズにするには、左腕、左手主導でなければならないのです。そのためには右腕、右手ではなく、まず左腕、左手に力を入れるようにしないとイケないのです。

ついつい右手に力を入れると、スイングのパワーアップが図られると思われるが、全く逆なのであります。

左手に比べて右手の力が強すぎると、力強いスムーズなスイングどころか、逆にボールをこねてしまい誰かのように引っ掛け気味もしくはファールばかりになってしまいます。つまり、右手の押す力では打球はそれほど飛ばないのであります。

それよりも左手一本で打つ感じのほうが、力強い打球を生み出せるのであります。右手は添える感じでバットがふらつかない程度に握るだけで良いのです。従って、バットスイングにおける握力、筋力強化は左手だけで良いのです。

とにかく、スイングは左手主導で。

尚、意識的に左手一本でスイングする際に左肩が早く開かないように、また右肩が下がらないように注意して。

☆誰ですか、力一杯左手で怪傑黒頭巾を握りしめているのは……

【3】右足に重心を残してスイング (左打者の場合は左足)

ゴルフの場合、何かというと重心を左足側に置き、左足一本でフィニッシュを取ることが良いとされています。つまり、左足を軸にしてスイングするようにしています。だから、極端な練習方法として、右足を地面から浮かせ、左足一本でスイングし、左足の軸を作るようにしています。

これに対して野球の場合は逆で、重心を右足側に置いてスイングすべきなのです。右足側に重心を残してスイングするからこそ、初めて内外角の球、上下の球変化球を打つことができるし、より遠くへ球を飛ばせるのです。

ゴルフのように、左足に重心を置いてスイングすれば、止まっている球ならば確実にヒットできますが、投手の投げる球は打てません。

また、右足に重心を残すことによってスイング時の上体の前(投手側)への突っ込みを防ぐことができます。だから打席に入るとき、右足の位置をしっかりと決めるのです。

ゴルフは左足を軸に、野球は右足を軸にしてスイングするのが基本です。ゴルフのドライバー・ショットで飛距離が出ない人に限って野球スイングをし、逆に野球で飛距離が出ない人に限ってゴルフスイングをしているのです。

最寄りのバッティングセンターおよびゴルフの打席に行き行って素人のスイングを見れば、きっと納得するでしょう。

また、野球選手でゴルフ上手は野手より投手の方が多いはずですが、なぜなら、投手の投球動作は、ゴルフスイングと同様に左足を軸にして左足に重心を残して、身体の回転および手の振りが基本であり、投手はこの動作に優れているからです。

☆誰ですか、怪傑黒頭巾を右足側に寄せて打席に入るのは……

【4】左手の甲を投手に向けてスイングし (左打者の場合は右手の甲)

本来なら、前記【1】のようなボディ・ターンで振れば良いのですが、更にリストを上手く使って打球を遠くへ飛ばす、速い打球を打つ方法があります。

こんなことを言うときスイング時に右手の手首を返す人がいますが、結果としてボテボテのゴロを量産する羽目になってしまいます。

ここで仮に、左手の手首を返すことに気が付いたとしても、上手く手首が返らないことで悩んでしまうことでしょう。

その一つの例として、急造の左バッターが上げられます。この急造の左バッターは、右手の使い方を知らない。慣れていないため、球を引っ張りきれないもので、打っても三遊間の方向にしか打球が飛ばず、振って引っ張れたとしても、大きい打球は望めません。

センター返し単打狙いならば、それで充分なのですが、ここではあえて大物狙いの話に終始するのだろうか。どうすれば良いでしょうか。簡単です。

左手の甲を終始、投手に向けてスイングできるようにするだけでいいのです。無理をして手首を返そうとしなくても、この場合自然と返るのです。

皆さんは「手首の運動」と言われた場合、殆どの方が手首を手の甲の方向（外方向）と手の平の方向（内方向）に動かすはずなのに、実際にバットを握った状態でのスイングにおいては、左手の甲は上方向に向いています。

つまり90%の人が、打席に入ってバットを持った左手で、逆水平の空手チョップをしているに過ぎないのです。この逆水平の空手チョップのスタイルでは、手首の動きは全く期待できません。

そこで左手の甲を投手に向けてスイングすることにより、手首の動きを投手方向および打球方向と一致させて、小さな手首の返しでバットのスピードを上げるようにするのです。つまり打席に入ってバットを持った左手の甲で、投球を打ち返す感じなのです。

こうすれば手首を使う意味があり、また手首を返す力がそのまま打球を飛ばす力となるのです。

どうですか貴方は。スイング中、左手の甲が上方向を向いていませんか。それとも投手方向に向けていますか。特に急造の左バッターが極端に手首が使えないのは、この右手の甲を投手に向けることができないからなのです。

バットを持って構えた時には、手の甲が自然と投手方向を向いているのだから、スイング時もそのままの状態を維持すれば良いのに、殆どの方はわざわざ手の甲を上方向に向けて、手首を使えない状態にしてスイングしているのです。

また、この手首の使い方によりバットを立てた状態に保ち、且つ、左肘、左脇が開くことを防止し、より大きな打球を打つことができるスイングになるのです。

これはゴルフのドライバーショットのグリップにも言える話です。

☆誰ですか、左手の甲の向きを怪傑黒頭巾を握って確かめているのは……

【5】左脇をしめて左肘を延ばして スイング(左打者の場合は右脇、右肘)

上記【4】左手の甲を投手に向けてスイングしろ、が確実にできるならば、意識しなくても左肘、左脇が開かずにスイングできると述べましたが、更に上級を目指す人は左脇をしめて左肘を延ばしてスイングすることをお勧めします。

とくに左脇をしめることで、前記【1】の身体の回転力と前記【2】の左腕主導の力を一体化させることができ、左肘を延ばすことでその身体の回転力と左腕主導の力を効率良くバットに伝えることができるからです。

せっかく左手の甲の向き、手首の使い方をマスターしたのに、左脇が開いていたり左肘を必要以上に曲げていると、身体の回転と左腕の移動とが一体化せずバラバラな動きになってしまいます。

また、右脇、右肘の位置に関しては個人の好みがあるので、ここではあえて触れないでおきます。

☆誰ですか、左脇をしめ、左肘を延ばしても、怪傑黒頭巾に届かないのは……

【6】右手首を内側に曲げて構えるな (左打者の場合は左手首)

上記では「左手」を中心に説明し、「右手」についてはあまり説明しなかったが、ここでは右手を上手く使えと言うことより、スムーズなスイング、力強いスイングの邪魔にならないようにするにはどうするかを説明します。

つまり、バットを立てて構えた時、右手に力を入れ過ぎて右手首を内側に曲げている人がいます。更に、スイング始動時にこの右手首を一度外側に返してから内側に戻しながらスイングするならまだ良いのですがスイング中もずっと右手首を内側に曲げたままでは良くないのです。

どうせスイング中に右手首を使わないならば、右手首を曲げずにいるか、若くは右手首を少し外側に返したままの状態に固定して構えてスイングの方がバットの出がスムーズになるし、また右手でこねるバッティングを防止することができるのです。

因に私は、右手首を少し外側に返した状態で構えています。

☆誰ですか、右手首を固定して怪傑黒頭巾を握っているのは……

【7】テイクバックは小さめに

やたらとテイクバックを大きく取る人、その方がその反動で打球を遠くに飛ばせると考えている人がいるようですが、あまり関心しません。

確かに、立てたバットを後ろに引いてから振り出すのですから当然反動はつき、多少バットのヘッド・スピードはアップするでしょうが、大したことはないのです。

それより、グリップの位置を移動させることによるタイミングのずれ、グリップの上下動の方が問題になるのです。

またひどい人になると、バットを後ろに引いて一度バットで弧を描いてから、遠回りして出てくるので、なかなかバットが出ない状態となっています。

またテイクバックを大きく取ることに慣れている人は、速い球も遅い球もタイミングをテイクバックで取ってしまうので、特に速い球のときに中途半端なテイクバックで打ちに行くことになり、スイングのバランスを崩してしまうことになってしまいます。つまり、決して良い効果は得られないのです。

そこでテイクバックをできるだけ小さめ（無くても良い）にし、構えたバットの位置からそのまま振り出していく方が良いのです。

この典型的なフォームとしては、予めバットを右足側（テイクバックした位置）に引いた状態で構える方法があります。つまりバットを、これ以上テイクバックできない位置に引いて構え、グリップの位置を終始動かさず、その位置から振り出すのです。

こうすれば、無理やりテイクバックを大きくしなくても、スムーズにバットが出るし、ヘッド・スピードも充分アップし、速い球にも対応できるのです。

速い球はテイクバックしなくても、その反発力で充分飛んで行くはずです。

☆誰ですか、怪傑黒頭巾をテイクバックさせているのは……

【8】自分の得意球を狙え

一般的には真ん中の高め球がホームラン・ボールとされていますが、人によってはインコースが得意な人もいれば、アウトコース高めが得意な人、低めが得意な人もあって様々なのです。

だから、当然個人によってホームランできるコースは様々なのです。そこで自分で一番打球が飛ぶコース得意とするコースを見つけ、その得意のコースに球が来たときにホームランを狙い打ちするのです。

最後に、ここに記載した技術論は間違っているかも知れません。

しかしこの技術論が間違っていないことを証明すべく、私は今後もホームランを打ちまくりたいと思います。

「このコースに来たら必ず打てる」というポイント意識しておくことが大切なのです。決してどんな球でもホームランにできるわけではないのです。

☆誰ですか、どんな球にでも対応できるように、怪傑黒頭巾を伸び縮みさせているのは……

上記の点以外にも、例えば左足、膝の使い方、タイミングの取り方などと幾つかポイントはあると思いますが、少なくとも私は上記の点をいつも意識して打席に入るようにしています。

また、打てなくなった時、スイングがしっくり来ない時にもチェックポイントにしています。

まだホームランを打ったことのない人は、だまされと思って是非一度試して下さい。尚、打率を稼ぐ単打もいい、足でヒットを稼ぐ人にはあえてお勧めしません。

本当の事を言うと、私はこの技術論を、公開しなかったのです。何年もかけて熟成させた秘蔵のホームラン打法の一部を公開してしまったことを後悔しています。

この打法を他のメンバーがマスターして本家である私と一緒にホームランを打つならいいですが、仮に私が打てずに弟子である他のメンバーばかりがガンガンとホームランを打つようになったらどうでしょう。心配です……

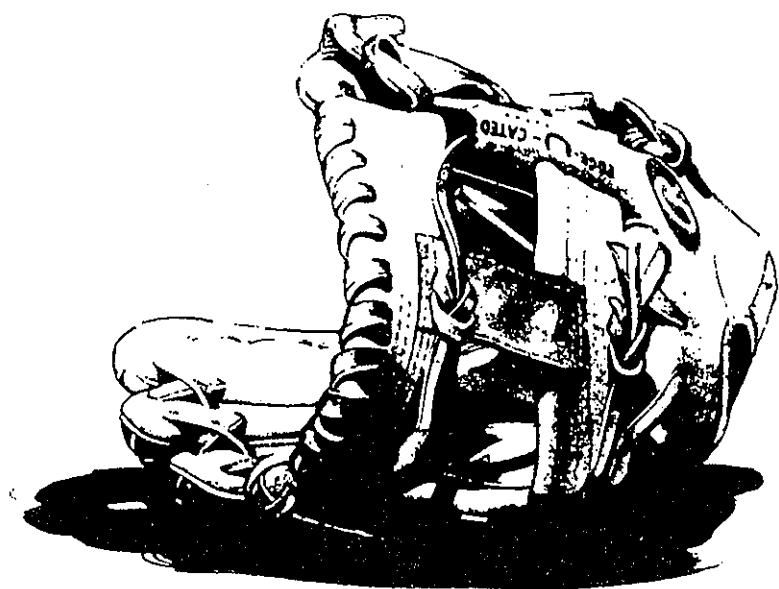
しかし、ここに公開した技術論は、あくまでもホームラン打法の周辺に過ぎません。核心は、あえて未公開してあります。私がバットを置く時（引退）が来た時その核心を公開しましょう。

どうぞ各人でそのホームラン打法の核心を見つけて下さい。

今回は「ホームラン」にこだわって自分なりに整理している技術論を展開しましたが、これに限らず走塁技術論、バント技術論、宴会技術論など何でもいのですから、自分で何かに「こだわり」を持ってプレーすることで、より違った面で野球に楽しく取り組むことができると思います。

奇しくもバミューダズの長老たちは、創設以来ずっとバミューダズ魂、遊びに手を抜かない事にこだわっているのですから。

400試合達成記念文集



【23】 乗松圭太選手 (内野手・投手)

私は野球が好きです

バミューダズの野球が好きです

あの真剣な野球が好きです

打てない野球が好きです

エラーの多い野球が好きです

でも、打てる・エラーのない野球は

もっと好きです

バミューダズのまじめな野球が好きです

⊙⊙ Baseball & I ⊙⊙

たかが草野球、されど草野球。究極の草野球を目指し、バミューダズは76年以来18年の歴史を刻んで来た。

300試合達成から4年、バミューダズ戦士が再び野球への熱い想いを綴る。

【1】建部英敏選手（投手・外野手）

私が野球をかなり本格的にやりだしたのは、小学校4年生の時だったと思う。当時、私は、東京の港区に住んでおり、近くのお寺の住職が普段はお坊さんとそろばん塾を開き、日曜日には、少年野球の監督をしていたのである。

そのチームは、「若葉」という名前で、ユニフォームを持ち、小学4年生から6年生まで総勢15人位いたと思う。

そのチームで私は、ピッチャーと外野手として聖心女子学院のグラウンドで3年間、毎週のように練習した。

中学に入学し、迷わず野球部に入った。そこには別にエースがいて、私は控えとして、専ら一塁を守ることとなった。

しかし、港区の中学陸上競技会のハンドボール投げで新記録を出したのを覚えている。その頃から、肩は強かったようだ。

高校でも野球部に入部した。ただ、都立の進学校だったためもあり、チームの雰囲気にも馴染めずあまり熱心に練習しなかった。

その結果チームのエースにもなれず、チーム自体も都の予選に1回か2回勝つのがやっとだった。

大学に入り、体育会野球部に入ろうと、一度は入部しかけたが、結局入らなかった。そして当時準体育会と称していた硬式野球クラブに入部した。

そのチームが、毎年佐久ホテルでバミューダズより一週間前に合宿している、「バトリック」というチームだった。

「バトリック」で、私の投手生命が開花したと言っているだろう。チームの先輩・後輩、そしてその雰囲気が私にぴったりだったせいだろう。

高校時代に練習試合で戦ったチームにいた者が偶然入部していて、高校時代より数段、私の球のスピードが速くなったと言っていた事が、それを物語っていると思う。

「バトリック」では、週に2回練習し1回試合をしていた。

その余勢をかって、我がバミューダズでも、投手通算100勝を目指し、もう一息がんばっていきたい。

そして、息の長い野球を目指し、これからもやっと思いっている。

8歳になった息子に、野球の面白さを少しずつ話しているが、彼は、「ほくは」リーグの選手になる」とサッカーの練習に余念がない。いつかきっと、彼を野球の道に引き込もうと心に決めている。（1993年9月）

【16】北野雅基選手（捕手・外野手）

1985

1985年は、私の野球人生の中で、一番短くて忘れられない一年間であった。

この年、私は苦しくも浪人生活を、故郷の博多で送っていた。昼間は予備校に行くふりをしては、ゲーム・センターに行き、夜は自分の部屋で勉強をしているふりをしては、ラジオでナイター放送を聞いて毎日過ごしていた。

ナイター放送を聞いていたと言っても、九州の田舎では民放が2局しかなく、殆どジャイアンツ戦かライオンズ戦を放送していた。

そのため、毎日、「会心劇」を続ける我がタイガーズの放送は、耳をスピーカーに近づけて、ラジオのつまみを少しづつひねって、どこからともなく聞こえてくる雑音まじりの放送を聞いていた。しかもその雑音は九州から朝鮮が近いので東京では聞くことができない朝鮮放送であった。

耳を澄まして聴いても点数がやっとわかるようなナイターであった

タイガーズはこの年、遠征で4試合（実際は雨で1試合中止）、福岡の平和台球場に訪れた。私は当然の如く予備校を休んで、全ての試合の応援に行った。

この年のタイガーズは、何をやっても神がかり的で、応援に行った3試合全てに勝利を取めた。

私の尊敬するバースも、3試合とも大活躍であの背番号44番は、今でも忘れられない。

本当は、バミューダズに入団して背番号44を付けたかったのだが、草野球ではそれが許されないのが残念である。

この年の秋、見事にタイガーズは日本一の栄冠をつかみ、私に感動を与えてくれた。それと、いくら弱いチームでも、チームが一つになって勢いに乗れば、優勝できる。バミューダズも一人一人は大した事はないが、チームになれば強力なパワーを発揮する草野球軍団に、今後成長して行きたいものです。

【17】渋谷和明選手（内野手・投手）

「こだわり」の中の草野球

私の場合、幸いなことに大きな怪我や転勤、赴任などが無かったこともあり、打撃のスランプはあるものの、入社以来長期のブランクなしで現役で試合に出場することができ、それも次々と出版された記念誌に現役で名を連ね、出場試合数では30代半ばにして既に長老の域に達しようとしています。しかし、元老院や七福神の域にはとてもはいれません。

入団してまだ日の浅い、出場数の少ない選手には分からないかも知れませんが、10年以上も草野球をやっていると、どうしてもマンネリ病にかかり、飽きて来るのです。つまり、いくら草野球が好きでも、単に年間20〜30試合に出場するだけでは飽きて来るのです。

では、どうしたら飽きずに長くプレーできるかと言うと、ある事に「こだわり」を持ってプレーしているからだと思います。それは、他人にとってはつまらない「こだわり」かもしれませんが、自分にとっての「こだわり」を持ってプレーすることが大切であり、飽きずに長くプレーできる秘訣だと思います。

例えばフォークボールで三振を取ることに「こだわり」を持つでもいい、ダブルプレーを取ることに「こだわり」を持つでもいい、キャッチング/スローイングの美しさに「こだわり」を持つでもいい、誰よりも速い打球を打つことに「こだわり」を持つでもいい、エンド・ランに「こだわり」を持つでもいい、盗塁に「こだわり」を持つでもいい

三塁ベースと三塁手との、その狭い間を抜く打球を打つことに「こだわり」を持つでもいいのです。

もちろん、できないプレーに「こだわり」を持つでもいいのです。何かに「こだわり」を持ってプレーすれば良いのです。

ちなみに私は、『オーバーフェンスのホームランを打つ打法』と『勝負強い打法』に「こだわり」を持ってプレーしています。

なかなか結果が伴わないのですが、時々オーバーフェンスのホームランが出たり、緊迫する場面でタイムリーヒットが打てたりすると、もちろん自己満足ではありますが言いようのない嬉しさを感じるのです。

すると、クレヨンしんちゃんのCMではないけれど『もう1回、もう1回、もう1回やれば』という気分になるのです。

最近では、これらの「こだわり」に飽き足らず、『美しい流し打ち打法』に「こだわり」を持ってプレーしています。それも相手投手が自信を持って投げた球を、芸術的な「流し打ち」で、ライト・オーバーのフェンス越えのホームランを一度打てたいと「こだわり」を持っているのです。

もちろん、出来るか出来ないかわかりませんが、この「こだわり」を持ってプレーすることによりまた新たな打法を研究しなければならないし、新たな面で野球に取り組むことが出来るのだと思います。

バミューダズのメンバーおよび我が家族が、口を揃えて『凄い、美しい、芸術的だ』、と言ってもらえるような、『流し打ち打法』に「こだわって」みたいものです。私の場合、単なる『右打ち』ではなく、美しい、芸術的な『右打ち』に、ぜひ「こだわり」たいと思います。

そういう意味では、バミューダズの元老院や七福神達は、頑固な「こだわり」集団なのですね。

だから老体に鞭を打ち、家族とのひとときをかえりみず、仕事を犠牲にしても、試合に出て来るのですね。

どうせ好きな野球をやるなら、とことん「こだわり」を持って野球をやる方が楽しいはず。

ところで貴方は何に「こだわり」を持ってプレーしていますか。

【19】内山秀敏選手（外野手・内野手）

心眼と念力の勝利

球団誌第3号発行から4年が過ぎた。この4年の間の私の野球人生で特筆すべきことは、たいへんに神がかり的なものであった。

技術的な進歩は第3号ですでに打撃開眼の悟りを開いたはずなのに、それ以後も一向に打率は上がらず、しかし、それを超越して一挙に神技の世界に突入してしまったのである。

話は4年前の、90年6月2日午前7時に遡る。場所は大井中央のクラブハウス前。

その日はニッサン・グリーンカップ都大会予選の決勝。この日までに決着をつけ、事務局に連絡しなければならぬが、場所が取れず早朝野球の時間帯となった。

しかもこの日は豪雨。夏至も近い6月の朝7時というのに、あたりは真っ暗である。

その場に集まったのは、バミューダズ6名、ピクトリーズ3名。このままでは試合もできず、6対3でバミューダズの勝ちにしたいが事前の約束どおりジャンケン3本勝負とする。

ニッサン・グリーンカップの担当者の務めとしてバミューダズのトップ・バッターズは私。

このとき、なぜか私は負ける気がしなかった。豪雨について集まった人数が、相手チームの倍である。絶対に勝って本大会に行くのだ、と思った。最初から、相手を圧倒する気迫があった。

そして何回か「あいこ」を繰り返した時、私には次に相手が何を出すのかが見えてきた。

まさに「心眼」というべきである。そして読みはズバリと当たり、私は勝負に勝った。

このような勝負は先手必勝である。勢いに乗ってバミューダズは、次の尾崎も勝って2-0で東京都大会出場を決めた。3年ぶりの都大会出場だった。

この年、我がバミューダズは4回戦まで進出してオールブラックスという怪奇なチーム（忍者のユニフォーム）に0-2で惜敗している。毎週、炎天下三郷のサンスポ・センターに通うのが楽しみであった。4回戦まで行ったのだから、ジャンケンで勝ったのも決して偶然ではなく、実力勝ちであったのであろう。

その後も私はジャンケンでは、神通力を発揮している。最も輝かしい戦績を挙げたのは91年6月の台湾出張の時であろう。

代理店の方々と宴会も終盤戦となり「あっち向けホイ」で負けた方がビールを飲み干すというゲームが始まった。酒豪を相手に、酒に弱い私が連敗しては、たちまちダウンである。

しかしこの時、私の読みは冴え渡った。ゲームが進むほどに勝負強さを発揮し、終盤では9割以上の驚異的な勝率を挙げて勝ちまくったのである。

（この勝負強さや「心眼」がなぜ、バッティングには活かされないのだろうか。）

このような話をしていると、グラウンドでは何もしてないように聞こえるが、決してそのようなことはない。

舞台は92年度オーシャンリーグの優勝決定戦へと移る。11月3日、宿敵レコーズとの八潮北での一戦は、バミューダズ3-0のリードで、5回表のレコーズの攻撃を迎えた。

1死走者なしでレコーズ9番の打球は浅いライトフライ。ライトを守備していた私はダイレクトで捕ろうと突っ込んだが間に合わずショートバウンド、ボールを思いきり蹴ってしまった。

しかし何という幸運か！ ボールは1・2塁間にかかる。必死で追いかけたがダメかと思った時、駆けつけたセカンド八尾が捕球。そして2塁を振り向けば、なぜか打者走者は2塁の手前で倒れて、右に左にのたうっているではないか！

なんとしてもアウトにしたいという、私の願いが念波となって、走者を襲ったのであろうか？

こうして奇蹟のアウトが成立、レコーズの攻撃は0点に終わった。

試合はこの後、終盤にもつれ、双方が3点づつを取り合い、6対3でバミューダズが優勝するのだが5回にレコーズを0点に抑えたことが、後で効いている。

私が浅いフライをダイレクトで捕ろうと突っ込んだこと、八尾がすばやくバックアップにきたことなどの、積極的なプレーが、この奇蹟を呼んだのであろう。

【教訓】とにかく手を抜かずプレーすること。奇蹟は後からついてくる。

【18】我如古昭一選手（投手・外野手）

野手として（大学3-4年）

私は彼等が信じられない。どうやら彼等は授業に出なくて仕方ないらしい。球場まで足を運ぶだけでも、授業に欠席しているのだ。試合が遅延になると余計に欠席数が多くなる、というのである。

エラーをしては申し訳ない、凡退してしまつてはマウンドで頑張っている投手に申し訳ない。そう思いながら、必死に打球を追ひバットを振った。守りのエラーで投手の足を引っ張ってはならない。1本でも多くのヒットで、投手を助けなければならぬ。せめて声で投手を激励しよう。

私は肩の故障でマウンドを降りて以来、野手として、いつも投手のためにプレーしてきた。

強いチームは、しっかりした投手が必ず1人か2人いるものである。投手がしっかりしていなければ、試合には勝てない。

また逆に言えば、投手さえしっかりしていれば、打線が少々弱くても、なんとかなるものである。試合は投手の力によって、ほぼ決まってしまう。投手は最も重要なポジションなのだ。

当然投手の練習量は、他の選手よりも多くなる。他のチームメイトが練習を終えてもなお、投手は1人黙々とランニングを続ける。

試合中もまた、投手は孤独である。チームのピンチをマウンド上で1人で背負うことになる。味方がエラーをしても文句は言えない。

投手は常に冷静でなければならず、決して興奮してはならないのだ。

投手は偉大である。投手は文字どおりチームの柱である。しかも最も厳しく辛いポジションである。ならば投手はもっと偉そうにすればいい。威張ってもかまわない。しかし、投手は決して奢ることはない。そんな投手がますます偉大に、そして美しく見えた。

ある年の秋季リーグで、常勝のはずだった我がチームは、エースの故障のため、開幕以来4連敗を喫した。勝つことを宿命づけられているチームにとって、それは非常につらい連敗だった。

故障のエースに代わって、次々とマウンドに送られた急造投手は、ことごとくノックアウトを食らい惨めな降板を繰り返す。そんな肺甲斐ない投手陣に業を煮やした当時のA主将は、ついに自らマウンドに登った。

彼は主将としての責任感から投手を務め、そして自ら連敗を食い止める。以後、残りの試合は全て、A主将が一人で投げ抜いた。この時のチームは正にA主将一人に救われたのである。

彼の野球選手としての技量と責任感が、チームを連勝に転じさせたのであるが、それだけではなかった。我がチームには、天気も味方してくれたのである。

リーグ戦は同一カードをどちらかのチームが2勝するまで続けて連日連戦を行うのが普通である。

従って最低二人の投手がいなければ、投手は連投を強いられ負担が大きくなり、チームとして苦しくなる。しかし、この時の我がチームはA主将一人であった。

わずか一人の投手でしかも急造投手が連勝できたのは、雨のため適度に試合間隔が空いていたためである。その証拠に彼の初黒星は、初めての連戦となった試合である。チームにとってはこの秋の雨が正に恵の雨となったのである。

試合のために朝早く球場に集まったが、前日の雨のためにグラウンド・コンディションが悪く試合はできそうにない。そしてこの試合の中止はA投手の肩にとって丁度良い休養になり、チームにとっても全く好都合である。

ところが、どういう訳か皆は、試合の決行を要求する。天気がどうあろうと試合は行われるつもりで皆この日に向けて、気合いを入れて来ている。その気合いが空振りに終わるのはしゃくなものである。戦意溢れ、十分に気力の充実したこの時に試合をしたいという理由もあるかもしれない。

しかし、仮にそうだとしても彼等が許せない。試合が中止になることを切に願いながら、朝早く右肩に痛み止めの注射をしてきたA投手は、そんな彼等を見ても何も言わない。

夏の暑い日には、水が飲みたくてたまらず、練習が終わると皆一斉に水道に向かって突進する。

傍らのブルペンでは投手がなお投げ込みを続けており、しかも皆がマウンドとホームの間を横切って行くため、投手はピッチングを中断せざるを得ない。それでも投手は何も言わない。

投手の偉大さすら知らないチームは、決して強くはならない。

【4】北野博基選手（投手・内野手）

Play Ball ---ボールで遊ぼう

5歳位の女の子がふたり写っている一コマの写真を見たときに、たいへん微笑ましく感じたことがきっかけだった。

ひとはシカゴカブスの帽子をかぶり、やや大きめのグラブを手にして一塁の守備についている。もうひとはお下げ髪の女の子でやや腰をかがめて一塁ベースから2、3歩リードを取ろうとしている。

1991年5月にアメリカに出張したときの機内誌で紹介されていた写真集からの一枚である。

「Baseball in America」という名の写真集が発行されたことを取り上げ、10数枚の写真とそれぞれについての短い解説とともに、『小さな町の砂ぼこり立つグラウンドで繰り広げられた小さなドラマから大リーグの強打者の対決のシーンにいたるまで、ベースボールがアメリカ人の生活にいかに深く浸透しているかを取り上げている素晴らしい写真集』という書評が添えられていた。

どうしてもこの写真集が欲しくなり、アメリカに出張する度にブックストアに足を運ぶこと数ヶ月。サンノゼのショッピングモールにあるブックストアでようやくこの写真集を手に入れたのは、その年のベースボールシーズンが終を告げようとしていた頃だったと記憶している。

税込みで約50ドル（当時の換算レートで7000円位）を支払い、ホテルに戻って早速ページをめくってみると、期待通り、いやそれ以上の感動を覚えた。

大リーグの有名プレーヤー達の姿は数カットで、残りの50カット以上は小さな町の名もないプレーヤー達のシーンが続き、そこに登場しているひとりひとりの表情は思う存分ベースボールを楽しんでいる。日本で言えば、草野球のヒーロー達のオンパレードである。

映画「Field of Dreams」に出てきたような農場の真ん中にあるグラウンドや、路地裏の狭い空き地で子供達が持ち寄った決して立派とは言えない道具でボール遊びに興じていたり、マイナーリーグのプレーヤー達がメジャーを目指して一所懸命に努力している姿などが写しだされている。

また、それを観に来たファン達が老若男女それぞれのスタイルでベースボールの醍醐味を満喫していることが、ひしひしと伝わって来るのである。

さすがにベースボールがアメリカの国技と言うだけのことはある。

「ベースボール」が日本に伝わると「野球」と名を変えてしまったが、名だけでなく、どうもその、本質に関わる重要な部分においても、変化してしまったのではないかという気がする。

以前から興味を抱いていたこともあって、関連する本を読んでいたが、この写真集を手に入れたからは一層、ベースボールと野球の違いを意識するようになってしまった。

玉木正之、ロバート・ホワイティング共著の「ベースボールと野球道」にその経緯を述べたのを見つけた。それによると、

「日本の野球の黎明期の指導者達は、このアメリカ生まれのゲームに、まず日本の武術の教義を持ち込んだ。つまり、際限のない鍛錬による精神の練磨を、野球における最も重要な要素と考えたのである。

アメリカのベースボールはまず市民スポーツとして誕生し、その後プロが生まれるという経緯のなかで発展した。

それとは正反対に、初期の段階で大学（高校）を中心とするアマチュア・スポーツとして広まった日本の野球は、まず教育の手段としてとらえられ、集団としての努力や、チームの和、さらに純粹さといったものが、何よりも重要な要素であると考えられたのである」

ということである。

たしかに色々な面で、指摘されている違いを見ることができる。衛星放送を通じて大リーグのゲームを観ると、プレイヤーはみな思う存分ゲームを楽しんでいる印象を受けるのに対して、日本のプロ野球選手の大部分は、ある種の悲壮感を漂わせて試合に臨んでいるように見える。

アメリカにおいては個性豊かなプレイを大切にすることに対して、日本においては確実性に重きを置いて自己犠牲の精神を伴う画一的な作戦が選択される機会がたいへん多く目に付く。

また、観客との関係においては、日本の球場に足を運ぶと目につくのはグラウンドとスタンドに一線を画す金網であるが、アメリカの大部分の球場ではこれがない。

観客とプレイヤーが一体となってベースボールを楽しんでいるのである。

これまで大リーグのゲームを5度観に行ったことがあるが、いずれの球場においても、スリリングなプレイとともに観客が存分にベースボールを楽しんでいる雰囲気や、大リーグの楽しさと醍醐味を十分に満喫することができた。

ところで、スポーツ(=sport)という語の語源は「disport」という語である、と聞いたことがある。

「port」は港という意味、「dis」はあるものから離れるということ、即ち「disport」は港から離れるという意味である。

ここで港とは日常生活を指しており、「disport」は「日常のいろいろなことから離れて楽しむ」ことを意味するように変化したらしい。従って本来スポーツは、楽しくなければならぬのである。

日本では野球に限らずほとんどのスポーツが武道の精神と結び付き、道徳教育や精神修養の面が強調されすぎたため、「楽しむ」という本来スポーツが持っているべき大事な要素が、軽んじられていると思うのである。

野球においてはとくにその傾向が顕著に現われてきているのではないかと心配している。甲子園の高校野球で敬遠策をとろうものなら、関係者のみならず、マスコミや国民の大多数から卑怯な作戦であると非難を浴びてしまうことは、昨年の松井選手の例が示している。

敬遠はルールブックで認められている立派な作戦であり、しかも相手チームにむさむさひとつの塁を与えてしまうリスクを犯しているにもかかわらずである。

最近野球の人气が低下し、「Jリーグ人気に支えられたサッカーが、熱狂的な支持を得るようになってきたことは、個性をより重視するようになりつつある昨今の社会風潮を追風として、野球よりもサッカーの中に「スポーツを楽しむ」精神をより多く見出し出しているためではないかと思うのである。

日本における野球の現状に対して幾分悲観的なことはかり述べてきたようだが、草野球には野球を「楽しむ」精神が脈々と流れ続けていると思う。

草野球の愛好者は金銭的報酬や地位、名誉などとはまったく関係なく、純粹に自らの楽しみのために活動を続けていると考えてよいだろう。

バミューダズにおいても、この精神を大事にしていきたい。バミューダズのベースボールは、ひとりひとりのメンバーが「楽しむ」ことを最大の目標として掲げていきたい。それぞれの局面において全力でプレイすることを通じて思う存分自分自身を表現することが、バミューダズというチームに対して私が描いている理想の姿である。

しかしながら、野球を楽しむということはひとりひとりが好き勝手なプレイをしてもよいということではない。チームでゲームをする以上、勝利を共通の目的として各自が全力を尽くすことが求められる。

その過程においては、送りバントの指示が出たりして自らを押し殺す場面が出て来ることも、ときには、あるだろう。

そのようなときでもチームの勝利がもたらす喜びを頭に描きつつ全力でプレイすれば、必ずや野球を楽しむことができると私は信じている。

メンバー全員が、それぞれの熱い想いを胸の奥に秘めて、白球を追い続けていきたいものである。

さあ、今日もまた"PLAY BALL"

-----ボールで楽しく遊ぼうよ。

【9】迫田和幸選手(外野手・投手)

野球と私

入社して間もなくバミューダズに誘われてジャージー姿で試合を見に行っただのがきっかけで、それ以来どういう理由かバミューダズにはまりにはまって3年。今年は首位打者を狙うほどの当たり年だった。

特別に素振りをしたとか極秘トレーニングをしたというわけでもないのに、打てばヒット、ヒットの連続。

理由は単純明快。「毎週継続して参加した」ことにつきる。グラウンドに行けば必ず試合には出させてもらえるので、とりあえずはグラウンドに行く回数を増やただけである。

初めてバミューダズの試合を見たときは、率直に言って「土曜の朝からよくやるなあ」という感じで冷静に見ていたけれども、3年目の今年は知らないうちに一生懸命一塁ベースまで全力疾走する自分の姿がグラウンドにありました。

4年目の来年は、156cmの身長を生かして、20打席連続四球、4割・100打点・40本塁打、4暴行退場を目指して頑張りたいと思います。

そして5年目には、「小さな大エース」としてバミューダズに君臨、最多勝投手となり、10年後にはフリーエージェントの資格を取り、20年後にはバミューダズの名将監督として活躍しているだろう。

そんな馬鹿げたこと、出来るわけないって？ いや出来るんですよ、これが。

なぜならバミューダズはこれからもずっと続いて行くし、これからも私は試合に参加するつもりだから……

【10】藤本和彦選手（内野手）

実録「この子なんです！！」事件

80年入団以来早いもので13年になり、まだまだ若いと思っていた私も、気がつけばいつの間にか長老の仲間入りをさせられています。

その13年の間に、私も、チームもいろいろな話題を提供してきました。その中の一つをここに書きます。

結婚当時（80年2月挙式）、妻の口癖は「あなたの様な野球バカは、見たことがない！」でした。

休みの日になると毎週のように、普段より1時間以上も早く起きて、いそいそと野球に出かける私に、妻はあきれ顔でよくそう言ったものです。

その妻の考えが変わったのは、妻を野球に連れ行ってからです。

その頃の、バミューダズのメンバーは、空飛ぶキャッチャーミットの塩瀬前監督を筆頭に、名スカウトの建部さん、ラグビースパイクの内山さん、豪打の小林さん、暴走の安藤さん、バミューダズ初の雷電賞を受賞した樋口さん・・・と錚々たる野球狂の集団でした。

試合に来た妻は、その野球に夢中になるみんなの姿に、呆れ、かつ驚き、そして一言、「バミューダズには、あなたと同じ様な野球バカがいっぱいいるのね・・・！！！！」それ以来、私の野球に関しては、何も言わなくなりました。

そんなある時、今でも中堅以上の人ならよく知っている、あの事が起こったのです。

品川区の大会前日の夜、私は子供とふざけ合っていて、子供の肩を脱臼させてしまったのです。翌朝私は監督に欠席の電話をして、子供を病院へ連れて行きました。

ところが、もう一人欠席した人（後に退団）がいて、結局、試合は人数不足により不戦敗になってしまいました。

そして責任を感じて落ち込んでいる私を見かねたのか、翌週、サンケイスポーツセンターでの試合に子供と共に連れて行ったとき、妻はみんなの顔を見るなり突然、子供を前に出して「ご迷惑をおかけしてすみません！！ 実はこの子なんです！！」

みんなは「え？・・・はあ・・・」と・・・。
これが知る人ぞ知る「この子事件」です。

その妻も、85年に他界してしまいました。

その時、塩瀬前監督から便箋6枚にもおよぶ手紙を頂きました。それには私への激励が綿々と綴られており、最後に「大変でしょうが、みんなも応援するから、これからも頑張って野球を続けましょう」と書いてありました。

私は、それを読んで涙ながらに、なにがあってもバミューダズは続けよう決めました。それ以来、この年になるまで野球にどっぷりつかっています。最近では少年野球のコーチまでやるようになり、ますます休日は野球づけの毎日を送っています。

このように、バミューダズには思い出がいっぱいあります。そして、これからも思い出を（できれば良い思い出を）沢山作るために、野球を、そしてバミューダズを続けて行くつもりです。

還暦野球を目指して、そして天国リーグまでも・・・！！ バミューダズは永遠です！！

【0】横田明佳選手（マネージャー、内野手）

信じるな！ あきらめるな！！

93年10月28日・・・ワールドカップ・アメリカ大会アジア地区最終予選が幕を閉じた。

出場をあきらめていた（だろう）韓国のアメリカ行きが決まり、「よし！行ける！」と信じていた日本は、またもワールドカップ出場がおあずけ、となってしまったのです。

予選の5試合中2試合がすんだ時点で最下位だった日本が、4試合終了時に首位となった時の、私の心は狂気乱舞状態。

今度こそ日本代表といっしょにアメリカへ行けると信じていたのに、メキシコ大会同様、決勝トーナメントの観戦をすることになりそう・・・

今回の予選は、サッカーの厳しさ、こわさ、おもしろさが、イヤというほどわかりました。

そこで・・・400試合を記念してバミューダズにひとこと、プレゼントします。

「信じるな、そして、あきらめるな」

【15】飯田克美選手（内野手）

現役最年長から一言

今年はあきまへんでしたな一。

阪神も巨人もだらしのうてな一。ヤクルトみたいなへボチームにV2されるやなんて、ほんまに頭に来るで。サッカーも、あのカタールでの最後のロスタイムの大ドンデンガエシには正直、力抜けたわ。

わがバミューダズもオーシャンリーグ準決勝で敗退とは、まっこと残念じゃわい。

株もあかんし経済も最悪、天下のソニーさんも今メチャクチャがな。

皆はん覚えてはりまっか、あの8年前・・ハース、掛布、岡田のバックスクリーンへの3連発。そんで21年ぶりのセ・優勝。引き続いて西武を破って日本一。

阪神優勝がもたらした経済活況、平成景気、あーよかったな一、あの頃は。そやけど、その後の阪神タイガーズの低迷と供にバブルがはじけ、今の不況になってしまった。

今は何をしてもあかん。景気の山が大きかっただけに、谷もでかいんや。

一番の薬は何か分かるか。それはただ一つ。

阪神と巨人が強くなって激烈な優勝争いを展開し最後に阪神が劇的に勝つこと。これが阪神ファンいや日本国中のプロ野球ファンばかりか、経済再建に何の打つ手もない政財界が超期待する、ベナントレースのシナリオやろな。

はっきり言わしてもらうけど、ヤクルトや中日が勝っても何の面白味もないし、経済効果ちゅう点では、ほんまクソの役にも立てへんで。

そやよって来年の阪神と巨人には、何としてでも頑張ってもらわなあきまへん。

ところで、小生も46にもなって、まだ現役をやらせてもらっているけど、こんな年寄りをまだ使ってくれるチームの皆さんには感謝しています。参加できる試合が徐々に減ってきて今年は3-4試合やったかな、ほんま寂しい限りや。

そやけどワシはまだ辞める気はないで。
まだまだ最近の若いもんには負けんで。
来年は出場目標10試合以上、3割確保。
甦るでエー・・・

【8】大橋洋行選手（内野手・捕手）

"Me & My Bermudas"

ちょっと昔、Broadway Musical で "Me & My Girl" というPerformance をやっていましたが、私にとってバミューダズは、なくてはならないものです。

今回は Singapore への赴任 (Tokyo 兼務) 準備のため、9月合宿を含めてそれ以来参加できずに、大変残念な想いを残しており、自分が納得できる技術論ができなかったこともあり、「私とバミューダズ」について述べてみたいと思います。

(NHK『青年の主張』のリズムで読んで下さい)

1. バミューダズとのつきあいは、 Wife とのそれよりも長い

入社してすぐ、契約金を払ってバミューダズに入団し、青春時代の大切な土曜日は、殆どバミューダズとのデートで埋まりました。

その結果、社員食堂で出会った彼女 (現 wife) と、たくさんの契約金と一生の年俸を払うことを約束し、結婚させていただきました。

大好きな彼女を野球と両立させる為にはグラウンドがデート・スポットと考え、

- 1) 野球を無理やり好きになってもらう
★気がつくときスポニチを読むくらいに
- 2) 野球人の人柄の良さ、男らしさを認めてもらう
★バミューダズの人柄の良さは抜群でした
- 3) 納会など Event にいっしょに参加する
★彼女の Cost が Save できることもある
- 4) Jリーグも、野球のセ・リーグ/パ・リーグと同じと言う
★たまには野球場でサッカーをしてごまかす
- 5) 彼女の誕生日には「愛のホームラン」を
プレゼントすることもできる

2. バミューダズの情報海外Networkは FBI, KGBよりすごい

その後 SONAM (New York, Los Angeles) へ赴任しても日経新聞よりも早く週末の試合やオーシャンリーグの結果が届き、毎年新しい選手が入団しているにもかかわらず、名前だけは知っていることが多い。

また資金回収力も、選手が海外のどこにしようとあらゆる手段を使ってすごいものがあり、American Express の Collection よりもこわい。

そして今やバミューダズ・タイムズは、日本の Wall Street Journal とも言われ、各 Writer の関心事のみ掲載する Unique な新聞である。

時には野球の記事ですら載らないこともある。

3. バミューダズは、いつでも あたたかく迎えてくれる

アメリカから帰任して、とてもうれしかった事は約7年間のブランクにもかかわらず、バミューダズは昔と変わらぬメンバーで頑張っていたことです。

「バミューダズは不滅です」と長島監督（現巨人軍）が言った通り、今後後輩が同じ気持ちで戻れる様に頑張りたいと思います。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

こうして私は日本に戻り、そしてまた海外赴任していきます。バミューダズも地域拠点化が進み特に Hong Kong, Singapore は強化されていますが日本のバミューダズから、アジアの Bermudas へ飛躍する時が来たと言えます。

【14】永嶋 仁選手（外野手・捕手）

あすま

吾嬭レンジャーズ

今年で40才。10才で野球を始めたので30年になる。

途中ブランクもあるが野球人生を振り返って見た。

先日、私の長女・香子の友達3人からインタビューを受けた。私の通っていた小学校が100周年を迎えたからである。

内容は、小学生の時にどんな遊びをしていたか？どこで遊んでいたか？である。考えてみると遊びは野球、遊び場は広場・野球場になってしまっている。

同様のインタビューを親父、そして家内が受けた。そお、同じ小学校の出身である。

ユニフォームを初めて着たのは「吾嬭レンジャーズ」であった。その当時のことを羅列してみた。

★永嶋3兄弟でこのチームに入った。

夏休みの練習は朝の3時に起きて4時から錦糸町公園のグランドで行う。朝の3時半に集合場所に行く時に、柳の下に酔つぶれた男の人が寝ている横を兄弟3人が肩を寄せ合いビクビクしながら通った。

★自転車屋のトシちゃんがバント練習の時に、近くを通った行商のおばさんの鼻に、引いたバットが当たり大騒ぎ。用意した洗面器が血で真っ赤になった。

★革のなめし工場の近くにグランドがあった。

初めてグランドまで行った時は吐き気がした。

★上級生が中学に行くと、6年の私に投手の話が回って来た。球は速くないけれども、コントロールは良かった。今でもバッティング投手に向いていると自負している。

★相手の監督からは、よくあれだけ打たれても平気な顔をしていられる、と褒めて？頂いたことを覚えている。

★少年野球大会で準優勝した。バットとボールの賞品がうれしかった。

この「吾嬭レンジャーズ」も、我々の代が中学に行って野球部に入ると、解散せざるを得なくなった。

親父は自分の小さい頃、用具が買えなかったので我々3兄弟には合計9個のグローブを与えてくれたが、野球のうまさは下にいくほどよかった。

長男はすぐに野球をやめた。私は次男である。今、地元の「スパンキーズ」で弟と一緒に野球をやっている。

83年に横野氏に勧められてバミューダズに入団した。10年になる。

私は「吾嬭レンジャーズ」で初めてユニフォームを来た時のことを、30年たった今でも昨日のこの様に覚えている。その気持ちが続く様にと思っている。

部屋のストーブを背中に受けながらうとうとしている。テレビは競馬ダイジェストでジャパンカップの優勝馬レガシーワールドを映していた。

【5】宮島正博選手（内野手）

初試合・初ホームラン

バミューダズに入団した私の野球人生の中で一番印象に残っているのは、なんといっても1990年7月の初出場試合。

まだユニフォームもなくTシャツ姿で出場させてもらった試合だ。

ライト側の外野フェンスだけがやけに近く感じる歪んだ形の青空球場で、何打席目かは忘れてしまったが外角高目のストレートを振り遅れ気味に打った打球は、見事にライトフェンスをフラフラッと越えていった。

ベースを一周してベンチに戻ったときには感激のせいか、或いはホームを踏んだ時にチームのみんなから嵐のように浴びせられた熱く激しい祝福のパンチのせいか、目にうっすらと涙をうかべていた。

そしてその初試合・初ホームランという華々しいデビューを飾ってから半冬眠状態に突入したまま、もう4シーズン目が終了した。

しかし、バミューダズが400試合を達成した今、オリンピックの開催間隔と同じように、4年に1度くらいはあの感激をもう一度、との思いを胸に秘め入団5年目に当たる1994年に向けて、そして500試合達成に向けて、バミューダズの背番号「5」は目を覚まそうとしている・・・夢の中で。

【27】神谷 宏選手（外野手・内野手）

今日は1月6日。まだ原稿をだしていないのは、私を除くとあと一人だそうです。

新人の私は昨年末まで販売実習に駆り出され、雑用の嵐にもまれて、すっかり会社のことを忘れバミューダズのこともちよびり忘れていました。申し訳ありません。

仕事に不慣れな私は、帰宅するとそのまま床につくことも度々あり、帰ってから素振り100回なんてしたことはありません。土曜の朝も決して気合いを入れて試合に臨んでいるとは見えないことと思います。

私は決して模範的なバミューダズのメンバーではないのです。「日頃迷惑をかけている分は俺の右腕で、いや、バットで借りを返すぜ！」なんてとても言えません。

【29】森 成美選手（内野手）

サヨナラ

同点で迎えた最終回、一死満塁。自分の打席は次の次。今、右打席に入っているのが凡退すれば絶好の舞台が回って来る。

“打つな!”、そう念じつつ右手を挙げる。

「プレイ!」

大学時代、体育のソフトボールの一コマ。

名前も知らない同じ学部のその打者は、初球の高目のボールを空振りした。

“よし”、ボールを見ていないし大振りだ。明らかにサヨナラの場面を意識している。

二球目は外角に外れたボール。

三球目は三塁側へボテボテのファール。

四球目は外角低目。コースはストライク、高さもヒザをかすめてミットに取まった。

見送った。いや、手が出なかった?

“ストライク?”一瞬迷ってコールした。「ボール」キャッチャーが振り向く。

ピッチャーは天を仰ぐ。

打者は大きく息を吐いた。

そして主審は後悔した。

“何やってんだ! 次に自分がヒットを打てば何の問題もないじゃないか!”

五球目は真ん中高目、打者の顔の辺りを通るボールで2-3。ピッチャーは明らかにビビっている。

六球目は、外角に遠く外れた。

「ボール」。他に表現のしようのない球だった。

かくして押し出しにて決着がつき、私のサヨナラのチャンスは潰えた。

あれから8年。森 成美、今だ本懐を遂げず。

①① 海の向こうのパミューダズ ①①

創設以来18年、仕事にも手を抜かないパミューダズは海外で活躍する人材を輩出してきた。飯田・小林・野村・鬼頭がまとめて海外に出た82年頃からは、誰かが帰国してパミューダズに復帰しても次の誰かが出るという、4~5人の海外駐在が常態となった。

そして迎えた90年代、国際化の流れは一気に加速して赴任者の数は10名を超え、国内の空洞化が心配されるほどである。彼等の隠れた使命は、遊びに手を抜かないパミューダ魂を、世界に広めることだ。それでは、赴任先でどのような活躍をしているか、彼等の報告を聞こう。

奥 昭敏選手(Stains, The UK)

イギリス野球事情

キラキラ輝く太陽、土埃のグラウンド、木霊する球音・・・日本を離れイギリスに赴任してはや4年、すっかり野球とは縁のない生活になってしまった。

日本にいた頃は毎週パミューダズに明け暮れ、ひたすら体力の温存に努め、金曜日の楽しい酒もがまんしてそれこそ野球に命を捧げたものだった。

野球の他にラグビー、テニスもやっていたので同じ日にすべて、うまい具合に重なると、大きなバックの中にユニフォーム3着、シューズ3足、バット、グローブ、テニスラケット、ラグビーボールと、それはもう大変な重さだったのを覚えている。

今思えばつくづく若かったのだなあと思う。

さて、ここイギリスでは歴史の古い国だけあって様々なスポーツが生れた。サッカー、ラグビー、クリケット etc. 残念ながらここに野球の割り込む余地は今でもほとんど全くない。

もっとも、皆さんご承知のようにクリケットは野球の前身ではあるが、2~3日間かけてのんびりとやるスタイルでは、とても野球のスピードとスリルは味わうべくもない。

また、Junior High Schoolの体育でRounderという課目がある。40cm位のすりこぎの少し太めの棒を片手に持って、投手が、アンダースローで投げたボールを打つスポーツで、少し野球と似ている。もちろん守りと攻めに分かれてベースも確か2つある。(ホームと一塁だったと思う)。この間を野球と同じようにアウトにならないで何人ホームに帰るかで勝負が決まるのである。

今年の春、会社のイギリス人がソフトボールをやるというので参加してみたら、何とバッテリーになった時立つ所がわからず、ホームベースの上になつた人がいたのには驚いた。

こんな調子なのでフライが捕球されてもランナーは帰塁せずにどんどん走る。3重殺も簡単である。

当然、その日の私は「知将 三原」と呼ばれ尊敬のまなざしで見られたのは言うまでもない。まあしかし、スポーツの後は洋の東西を問わずうまいビールで盛り上がるのは同じである。

最近オリムピックの正式種目になったこともあり、ヨーロッパの国々で少しずつではあるが競技人口が増えて来ている様である。特に小国であまりこれといった強いスポーツのない国は、国全体で力を入れ、ヨーロッパの代表を狙っているところまであるようだ。

いつ日本に戻れるかわからないが、その時はまたパミューダズの正三塁手に戻りたいと思う。道は厳しいだろうが。

居山由彦選手(Amsterdam, The Netherlands)

「北の国から徒然なるままに、故郷に寄せる、パミューダズ、夏の日の思い出、支離滅裂」

希望という名のあなたを尋ねて、遠い国へとまた汽車に乗る・・・歌を忘れたカナリヤが、講談を忘れて久しこの頃・・・流浪の果てのイギリスに、流されついでオランダに・・・四十七士を知る人もなく、平家の栄華も歴史の彼方・・・語れども語れども理解することのなき民を前に、パミューダズ伝道の旅の孤独を、体のシンから身に染みる北国の青い空。

わかってもらえぬこの言葉、理解に遠しこの重み
あ〜あ〜、青春のあの名文句、ご唱和下さい。
「どんな問題ですか? いや、ドンナモンダイ」

野球から離れて久しこの日頃・・・ゴルフという
名の英国伝統球技に身を置くことしかできぬ、わが
身の空しさか・・・インパクトの瞬間に脳裏をよぎる
野球の思い出・・・

快音をさせ、飛んだ打球はお得意のライン際、
二塁打必至の強烈なスライスショットはOBという
名の3打点・・・かつて高打率を誇りし身分には
外野手の守る定位置を狙おうなどとは思ひもよらず
つつい外すグリーンの脇、一度ならず二度サンド

・・・あげくの果てはワンバウンド寸前の地上スレ
スレのボールを振るなど、選球眼の風上にも置けぬ
スポーツを風下に置いたら、つつい自分も時流に
流され・・・Baseballをしようと言うと
ソフトボールを持って来る無知蒙昧の民に向け、
ソフトクリームを差し出し返す魑魅魍魎・・・

私には太宰治が如くの孤独が似合うのか。

しかし・・・片や海を越え思いを馳せるヤクルト
スワローズは、もはや完璧なセ・リーグの覇者。
私がバミューダズに残してきた伝統はしっかりと
広沢に古田に池山に秦に飯田に荒木にと語り継が
れる琵琶法師。

秦の右投げ左打ちのスイングは、確にかつて
人々が『ロングバージョン』と呼んだ頃の、わが
カミソリパンチにさながらの・・・

飯田のあの強肩、思い出すのはバミューダズ
内山⇒居山⇒藤本と言え黄金のスクランブル
一直線、飯田の肩なら一人ですむのに、3人並べ
ても、まだホームに届かない、矢のようなと言う
よりは矢継早の返球で本塁寸前タッチアウトの
あの肩に似ている。

池山の守備範囲の広さは若き日のショート居山。
右横1メートルの打球に、動かぬ足・飛ばぬ体を
横ッ飛び。倒れた顔で球を受ける、そんな離れ業を
彷彿とさせる、その抱腹絶倒。

古田のシュアなバッティング。あくまでも相手
投手の力を利用して鮮やかに打ち返すその技術。
30代を過ぎてから右打ち転向、右へ左へと鮮やか
に、しなやかに球を踊らせ、時として球に逆らわ
ないばかりに、自らの打球を眼で受け止めた、わが
若き日に共通する。

今や140kmを望むべくもなき肩なれど、荒木
大輔を見ていると、ああ私にもジョウブ博士がいた
ならば、いまだ投手生命は丈夫であったことかと
思いし日もあり・・・

年はとり、2年のブランクはあれど、私の身に
ついた野球への闘争本能は、basic instinct となつて
氷の微笑に焼き付いている。本当におでんの中に
白いハンペンを見つけると、思わずスライディング
をしたくなる。スーパーで大根を見つけると思わず
球ネギをヒットしたくなる。スーパーヒット高打率。
今、2年の静寂を打ち破り現代に蘇るジュラシック
パーク、青空球場。講談の机を叩く木製の定規は
空飛ぶ黒い金属バットに姿を変え、歴史の秘話の
門戸を開く Open Sesami!

(最後の一節はぜひプレスを入れずに、一気に読み
干して下さい。但し呼吸困難に注意して・・・サッ
大きく息を吸って・・・)

さしものクレヨンしんちゃんも洗濯屋ケンちゃん
の持つ時の重みを理解せず、これより再び栄光の
野球人生に舞い戻らんと、ロッキーは7度目の成功
に向かって、不屈の復活に向け、フィラデルフィア
場所を改めアムステルダム海風吹きすさぶ冷たい
道の上に、黄金の足を強く踏みしめ、苦難のトレー
ニングに、またしても取り組む決意をしようかと、
ここは考えアグネス、悩んでソクラテス、とりあえ
ず、最低限のテニス・トレーニングぐらいいはして
おこうと、会社最寄りの今をときめくスポーツセン
ター、寒い屋外をあくまで避けた室内テニスコート
へと足を向けて、ふと軽井沢テニス合宿の、あの
地獄の自主トレキャンプの日々を思い出す、そんな
夏の日の思い出、冬のため息、秋の雨とはこれいか
に・・・

永田 強選手 (上海、中国)

ご無沙汰しております。上海に赴任してから半年
が過ぎましたが、この間まだ一回も野球の試合に
出ていません。といいますのは、上海には商工会
クラブ主催のソフトボール同好会はありますが、
野球はないからです。残念ですが・・・

現在week endには、掃任してもすぐ我が野球
大好き軍団バミューダズに復帰できるようテニス
やゴルフで身体を鍛えています。日本に戻った際、
是非また皆さんと楽しく大好きな野球をenjoy
したいと思います。その際には今までと同じに
宜しくお願いします。

宮嶋功明選手 (Stuttgart, Germany)

(1) 赴任先のスポーツ界への貢献

日本人会のソフトボール大会にて、ソニー2連覇の影の主役?として活躍しております。

主にノミニケーションにいそしんでおり、運動不足の今日この頃です。

(2) バミューダズ魂の伝道

韓氏の築き上げた「After Fiveのバミューダズ」というイメージを引き継ぎつつ(と申しまして韓氏のレベルには程遠いのですが) Before Fiveもバミューダズ、ということががんばっております。

(3) 帰国後のバミューダズ復帰に備えて
ドイツと言えばビール、ということで毎日ビールをたらふく飲んで、復帰後はデッドボール要員として活躍すべく、腹をなでしております。

(4) ドイツについて

なんと申しましてサッカー大国で、どの町にもサッカー場があります。日本人会のソフトボール大会もサッカー場で行います。

今年の欧州選手権でデンマークに敗れたとき、ドイツ人は「二度と奇蹟は起きない」と負け惜しみを言っておりましたが、私が「次の奇蹟は日本がワールドカップでドイツを破ることだ」と言うと余裕の笑いで「それこそが奇蹟だ」と言われました。

吉田 洋選手 (香港)

今、東南アジア・中国が燃えている

今年の春季合宿にて、輝かしく、投手デビューを飾った後、塩瀬前監督を追うように香港に赴任してから、はや6ヶ月が経過しました。

海外赴任すると、ゴルフ・スコアの向上を通じて赴任先のスポーツ界への貢献が為されるということ、赴任前に耳にしましたが、仕事(?)で多忙にしているためか、ゴルフについては2カ月に1度も行えない状況であり、不幸なことにスコアも全く変わっていません。

また、香港には野球チームがありません。代わりに日本人の間ではソフトボールが盛んとなっており私も7月下旬より、あるソフトボールチームに所属しています。

日曜日の、朝7時頃からの試合にもかかわらず、日本のときとは違って遅刻せずに、ソフトボールを野球と思ってプレーに励んでいるところです。

今後はゴルフの回数を増やし、ソフトボールにも積極的に参加することにより、トレーニングに励み出張時の試合、帰国後の復帰に備えていきたいと考えています。

1985年、北京留学時に、「今、五反田が燃えている」という、当時の中国では「大変刺激のある」バミューダズ・タイムズを送付してもらったことを今でも覚えていますが、私が担当している中国・東南アジア諸国についても、幅広い交流を深めることで東南アジア特有の「ホットな情報」をお届けしていきたいと考えていますので、今後とも宜しくお願い致します。

鍵田俊哉選手 (Jeddah, Saudi Arabia)

1991年にバミューダズを休職して、早2年が過ぎようとしています。ここサウジアラビアでは、hot, hotter, hottestと3つの季節がありますが、その暑さにもめげず、来るべきバミューダズ復帰に備えてトレーニングを積んでいます。

こちらでのゴラクと言えば本当に限られていて、(勿論酒も映画館も無い)、テニス、ボーリング、ビリヤード、または卓球にまで手を出す次第です。

そんな中で今年より当地の日本人で「Jリーグ(ジェッタ・ソフトボール・リーグ)なるものを設立し、日頃の欲求不満・運動不足の解消に貢献しています。月一度のトーナメントも6回を数え、現地チームとの対抗戦など多彩な活動をこなしています(こちらではJリーグより盛り上がっている)

さて、ここでサウジアラビアに関するクイズです。間違っているものを3つ選んで番号を送付して下さい。正解者の中から3名様に、砂漠の砂を差し上げます。

- (1) こちらでは、ガソリンは水より安い
- (2) 皆、車は持っているが、普段オフィスに行く時はラクダを使っている。

(Staffはヒトコブ、Managerはフタコブラクダ)

- (3) 女の方は、外へ出るときは必ず黒い服を着なければならない。
- (4) 電気がないので、25インチ以下のテレビは電池で作動できるようになっている。
- (5) 「ラクダに注意」という道路標識がある。
- (6) 豚肉を食べるときは、家でこっそり食べなければならない。

(買うときは「ラクダの肉を下さい」と言う)

塩瀬正明選手（香港）

Dream of Baseball

1 香港に赴任してはや1年が経った。当初は、東京から4時間のフライトの地であるので、1カ月に1回ぐらいはバミューダズの試合に出られるだろうと考えていた。まして、年末のドラフト会議・春の伊豆・初秋の佐久の合宿には必ず出られるものと信じていた。ところが、この1年間、これらの重要行事に一度も参加できなかった。

1992年には3年ぶりに宿敵レコーズを破ってオーシャンリーグの覇者になってくれた。嬉しいことに、年末に優勝メダルを私のところにも1枚届けて頂いた。ナインの熱い想いに感激しリビングルームに飾って、自分自身と訪問客に自慢する、展示品となっている。

2 ところで香港の野球について報告せねばならない。「観る野球」は、Star TV という衛星放送でアメリカ大リーグの中継を時々やっている。「読む野球」は英字紙（例えば South China Morning Post）で、アメリカ大リーグの試合結果と日本のプロ野球のスコアのみ教えてくれる。私のアパートは日本の衛星放送が映らないので欲求不満となる（香港でも、住むアパートによっては、NHKの衛星放送と、WOWOW が観られる）。

3 バミューダズ戦士としては、『やる野球』に係わらねば、男が廃る。

それで着任3日後の9月5日（土）に知人が監督をやっているリトルリーグの野球練習に参加すべく Aberdeen 近くのグラウンドに出かけた。

ところが内野守備をやっても外野守備をやっても11〜2才の子供が放つ打球の速さに驚き、恐怖で1回きりで顔を出すのをやめてしまった。硬式しか野球と呼ばないことを身を以て確認した次第だ。

4 (1) 軟式野球のない土地ではそれに代わるものはないのかと探してみた。ソフトボールがあることを聞きつけ、ソニー香港の知人に、東芝の駐在員でソフトボールの主力選手を紹介してもらって、彼のチームに入れてもらった。

それが現在所属している「ATTACKERS」である。（ちなみに吉田選手も1993年3月に当地に赴任してきたので、同じチームに入るように誘った。しかし在籍メンバー数が多く、誰かが辞めるのを待たねばならないということで、彼は他のチームに入団してしまった。）

(2) この、日本人だけで構成するソフトボール・リーグは一部と二部とあるそうで、『ATTACKERS』は一部に属している。一部は12チームから構成されており、総当たり戦で前期・後期と年2回戦われている。

場所に恵まれない香港だが、Hong Kong Softball Association という団体があり、空港に近い天光道（ティンクォンドー）に「野球」の定義どおりのフェンスに囲まれたグラウンドを持っている。

これともうケ所石硤尾（シェキップメイ）というところにもグラウンドが確保されている。

(3) 第一試合は7時15分、第二試合は8時30分 各々試合開始となっている。第一試合に出場するには6時半に家を出て車で15分のグラウンドに駆けつける。試合前の30分は体操・キャッチボール・フリーバッティングが行われる。8時半に試合が終わるとチーム内のミーティングがあり、その試合での個人の打撃成績と連絡事項が告げられる。

9時にはアパートに戻り、すぐユニフォームを洗濯することになる。

(4) 審判の方は、第一試合は第二試合の出場チーム 第二試合は第一試合の出場チームから、1チーム3名で構成される。主審と塁審2名だ。時には第二試合のあと、フィリピンや香港の女性ソフトボールの試合が予定されている時は、その審判をさせられることもある。

(5) 1993年3月7日（日）にデビュー以来、前期は打撃好調で、16打数8安打（打率5割）とチーム2位の高打率を残せた。

たかがソフトボールと言うなかれ、チームによっては、高校野球で甲子園出場チーム、県大会上位進出常連チーム、または大学野球で活躍していた20代後半のバリバリの人が入っている。守備のレベルは高いので高打率は残しにくい。ピッチャーも、速球・スライダー・チェンジアップと球種を多く持っている。

(6) 守備は9名で構成するが、打撃はその日参加した全員が順番で打つ。15番、16番といった打順だと7回制なので、1回しか打順が回らないこともある。

私はファーストしか守ったことはないが、いずれピッチャーのポジションを自力で奪おうと狙っている。

(7) チームの会費は試合のある日に、毎月100HKドル（約1400円）徴収される。グラウンド代、ボール代、試合後の飲み物代などに充てられている。

(8) 6ヵ月に一度ゴルフ・コンペを行っている。優勝者とブービーが次回幹事とさせられ、私はどういう訳か2回連続して幹事の榮譽に飾られている。

(9) チームでは最年長だが、他チームには50歳の人もエースで頑張っているんで負けられない。

5 昨年に続き今年も、B軍戦士の中の有力選手が海外に赴任していく。これによるチーム力弱体化を心配しているが、私の後任として指名した北野監督以下全員が総力を結集し、伝統を発展させてくれることを祈っている。

6 今回も編集に多大な精力を惜しみなく費やしてくれた内山選手に感謝する。

彼は、私が香港赴任後、毎週のように前週末のバミューダズの試合結果を英文のスポーツ新聞にして、送ってくれる。このことでどれだけ励みになっているか測り知れない。

深謝する次第だ。

7 最後に4冊目の本の出版にあたり、出場試合数・三振数など、チームの個人記録を今後とも伸ばして行けるよう、精進していくことを誓う。

1993年10月10日
香港に向かう機上にて

☆☆イスタンブールに突撃電話取材を取行

なかなか連絡の取れない八尾選手。しびれを切らして電話してみると、なんと9月の末に出した手紙がや。11月20日頃届いたとのこと。FAXもあまり当てには出来ない様子。そこで緊急電話取材となった。

(11月24日)

八尾雅之選手(Istanbul, Turkey)

1 ハードな語学留学の日々

9月からトルコ語の初級を始め、もうすぐ中級のための試験があります。授業は朝9時から午後1時でも宿題が山のように出るので午後でも勉強です。

2 トルコ スポーツ事情

さすがに野球はありません。サッカーがとても盛んです。私は長距離走をやっていたので、ロードワークでもやりたいのですが、ここは車と暖房(泥炭を使った排気ガスで、冬は特に空気が悪いのです。走るとかえって体を悪くしそうです。

3 イスタンブール

古い街。冬は曇りの日が多く「灰色のベール」といイメージです。夏はそれなりにきれいなようですが、日本食はありません。毎日焼肉です。

最近帰任した元バミューダズの若泉さんとは、共通話題があり話がはずみました。奥選手も一度来まし

4 バミューダズへのメッセージ

海外赴任が相次いでたいへんです。私は4月中卒業して帰国の予定です。日本にいたときは張り切った試合に出ますのでよろしく。

(1993年11月24日)

こうして編集をしている間にも、バミューダズのエース建部選手は、シンガポールに旅立っていった。また、球団史上、最強のバッターと言われる大橋選手も来年(94年)初めには同じくシンガポールに赴任の予定である。二人とも二度目のお勤めである。

さらには将来のエースと嘱望されていた我如古選手も韓国へ赴任の予定である。珍さん(吉田選手)の言うとおりの『今、アジアが燃えている』のだ。

バミューダズ海外駐在員の各選手は、『仕事にも手を抜かない』バミューダズ魂を大いに発揮して、思う存分腕をふるって頂きたい。

集まり散じて人は変われど、バミューダズは『究極の草野球』を目指し勝利を積み重ねつつ、君たちの帰りを待っている。

(1993年11月30日)

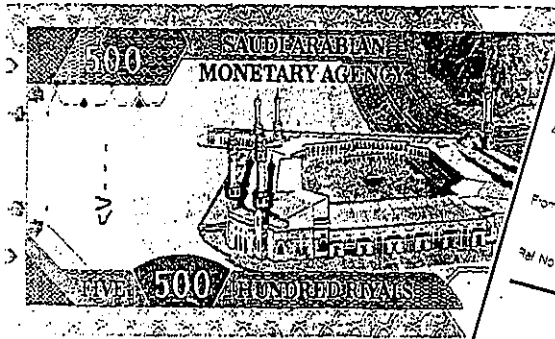
25/OCT/93

海外からの手紙

RE: B Project

- 遅くなりましたが、上記のものを添付します。
- 出張先より書きましたので日本語の辞書無しで書きました。
- 原稿料も添付します。
(お支払いは帰国した際お願いします)

ついに来た!!
FAXでの“送金”



春合宿の
宿舎にいきなり
香港から
FAXが舞い
込んだ!!

SONY

FACSIMILE
Sony International (Singapore) Limited - Hong Kong Branch
9028, Epsilon Curve, 63 Mody Road, TST East, Kowloon, Hong Kong
Telephone: (852) 721 0808 Facsimile: (852) 269 3017

Members of Bermudas
M. Shiase

Date: 6 Mar. '93
CC:

HKは快晴で“里帰り”
22日から30日の間、
リーグの試合(3リーグ制)
全試合がアリ。

今回は“カッパ”は伊東合宿に参加で“きず”申し
なく思っています。

今年はどうあっても楽しいかは横田さん宛の
手紙に書いたの2”をこちらを“参照”下さい。

皆さんは庭ともなれば“お米や麦のジュース”
(蒸留)をしたま飲みがあれませんが、友との
交流には困っても、気遣いはしっかりと
下さい。あくまで“Bermudas”なり各自の目標、夢
を“大きく高い”の2”です。昨年で“できなかったことを各々”
“できるようにするため、技術を少しでも磨くため”
read work と気持ちの持ち方が“大切だ”と思っています。
日頃の運動に手を抜かず“コツコツと体をトレーニング”
して下さい。特にタックル、柔軟、素振りには欠かす“下草”
を鍛えて下さい。
それと“手抜きせず”精一杯で“尽くして下さい”。

Do you know English Bermudas Times ?

あなたは知っているか？ 英文バミューダズ・タイムズを？

以下にご紹介するのは、赴任先の香港で日本の草野球情報に餓えている、我等がMr. Boo, 塩瀬元監督のため、今年から毎試合後、英文にて送っている極秘のFAX文書の一部です。

FAX MESSAGE

DATE: JUNE 15, 1993

ATTN: MR. M.SHIOSE Deputy GM, SONIS HK BRANCH

FROM: H.UCHIYAMA BPMK AREA

Re: Report of B Project(93-9)

1. A Visitor from Hong Kong finally burned out

Bermudas tied with Red Turkeys by 3-3 on May 29 (Sat.) at Atsugi Technology Center. M.Shiose, ex-Manager of Bermudas now stationed in Hong Kong, played for Bermudas as a starting pitcher. He said he came back here on business trip but nobody believed him.

Leading Red Turkeys by a score of 3 to 2, he retired to became a left fielder from the 5th inning.

Then, two fly balls came to the left field. He failed to catch them and also lost a name of winning pitcher.

Red Turkeys 1 1 0 0 1 0 0=3

Bermudas 1 0 2 0 0 0 0=3

Re: Report of B Project(93-7)

1. Bermudas crushed Hanaemori in Nissan GC

Bermudas defeated Hanaemori (ハナエモリ) by an overwhelming score of 15 to 1 on May 15(Sat.) at Ohi Central Sports Center.

It was the 2nd Round of Preliminary Contest for Tokyo Metropolitan Tournament of Nissan Green Cup.

Bermudas smashed down Hanaemori's two pitchers by K.Shibuya's 3-Run homer, three-base hits by H.Kitano and K.Sakota, 3-Run two-base hit by S.Kaneko (我如子) and so on.

Winning pitcher was H.Tatebe.

S.Kaneko hurled in the last inning.

B. 2 0 3 4 6 = 15

HM. 0 0 1 0 0 = 1

バミューダズ戦士は、どんなに大差で勝っていても、また負けていてもプレーに手を抜かない。なぜなら個人記録がかかっているからである。

これがバミューダズの強さの源泉である。

記録との戦いは、時には試合が終わっても続く。ある月曜日の朝、仕事に忙しいF選手のところへ、X選手から電話がかかった。

「もしもしFさん。昨日の試合、私の打ったやつ、あれはヒットですよ。絶対にエラーじゃないですよ」

多忙の頂点の朝10時、この電話を受けて、自称野球バカのF選手も絶句、目が点になり髪の毛が予定よりも多く抜けたという。

このような狂信的なプレーヤーに支えられ、ついにバミューダズは400試合に到達した。

それでは以下に、この4年間を中心にその輝かしい個人記録を紹介しよう。

まずは・・・

個人記録 歴代ベスト3

打撃部門

出場試合数	塩 瀬：317	渋谷：258	内 山：218
通算打率	大 橋：0.379	建 部：0.326	宮嶋功：0.320
(打席数200以上)			
安 打	渋谷：175	建 部：163	塩 瀬：162
本塁打	塩 瀬：17	徳 光：17	渋谷：16
打 点	渋谷：161	建 部：145	塩 瀬：118
得 点	渋谷：190	塩 瀬：178	北野博：169
盗 塁	北野博：222	藤 本：174	徳 光：149
三 振	塩 瀬：175	内 山：100	渋谷：86

投手部門

出場試合数	建 部：150	塩 瀬：150	北野博：40
通算勝利	建 部：80	塩 瀬：78	宮嶋功：18
通算防御率	金子治：1.27	宮嶋功：1.49	建 部：1.50
(投球回数100回以上)			
投球回数	建 部：767 2/3	塩 瀬：723 2/3	宮嶋功：169
対戦打者	塩 瀬：3122	建 部：3025	北野博：748
奪三振	建 部：758	塩 瀬：575	金子治：170
被安打	塩 瀬：502	建 部：498	金子治：148
四死球	塩 瀬：354	建 部：163	北野博：122

1990年度 打撃成績

順位	選手名	打率	試合	打席	打数	得点	安打	本塁打	三塁打	二塁打	打点	犠打	四死球	盗塁	三振
*規定打席数：試合数×1.3=41以上															
1	塩 瀬	0.411	28	70	56	22	23	1	3	2	15	1	13	9	8
2	建 部	0.390	17	53	41	13	16	2	2	3	20	1	11	7	1
3	北 野 雅	0.340	17	62	53	22	18	0	1	2	14	1	8	12	6
4	洪 谷	0.304	22	67	56	14	17	1	4	5	20	1	10	7	7
5	北 野 博	0.299	26	93	77	25	23	0	2	3	11	0	16	32	8
6	宮 嶋 功	0.271	16	56	48	16	13	2	4	1	18	2	6	11	1
7	永 嶋	0.269	21	58	52	12	14	0	1	1	3	1	5	7	9
8	藤 本	0.255	17	56	47	12	12	1	0	3	10	0	9	12	2
9	鍵 田	0.250	23	65	48	19	12	1	0	0	6	1	16	11	7
10	徳 光	0.235	15	43	34	6	8	1	0	1	7	0	9	8	6
11	吉 田	0.205	17	45	39	12	8	0	0	5	5	0	6	10	9
	三 浦	0.462	5	16	13	8	6	0	1	0	5	0	3	4	1
	尾 寄	0.429	14	31	28	7	12	0	0	0	6	0	3	4	5
	森 田	0.333	4	6	6	1	2	0	0	0	2	0	0	0	3
	鬼 頭	0.333	1	3	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
	飯 田	0.286	3	8	7	2	2	1	0	1	2	0	1	0	1
	外 山	0.250	12	29	24	8	6	0	0	1	4	0	5	9	3
	岡 本	0.231	6	16	13	4	3	1	0	1	3	1	2	1	2
	山 本	0.231	6	15	13	0	3	0	0	1	2	0	2	3	0
	望 月	0.200	2	6	5	1	1	0	0	0	0	0	1	0	2
	宮 島 正	0.200	6	11	10	2	2	1	0	0	1	0	1	3	2
	鈴 木	0.167	4	7	6	1	1	0	0	0	2	0	1	1	3
	松 本 哲	0.167	2	6	6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	山 下	0.167	4	6	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
	内 山	0.143	16	32	28	5	4	0	0	1	3	0	4	3	6
	乘 松	0.100	8	22	20	4	2	0	0	0	0	0	2	2	5
	吉 武	0.067	6	19	15	5	1	0	0	0	0	0	4	3	2
	居 山	0.000	4	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
チーム合計		0.279	31	907	760	222	212	12	18	31	160	9	138	159	106

1990年度 投手成績

順位	投手名	防御率	試合	勝利	敗戦	セーブ	回数	打者	被安打	四死球	奪三振	失点	自責点
1	建 部	1.33	15	10	4	1	84.0	318	58	7	54	29	16
2	塩 瀬	2.64	11	5	4	0	55.7	265	57	30	27	41	21
3	北 野 博	2.76	7	2	0	0	25.3	123	28	14	16	18	10
4	三 浦	1.11	4	2	2	0	19.0	76	7	11	12	6	3
5	宮 嶋 功	28.00	1	0	1	0	1.0	8	3	2	2	4	4
チーム合計		2.04	31	19	11	1	185.0	790	153	64	111	98	54

1991年度 打撃成績

順位	選手名	打率	試合	打席	打数	得点	安打	本塁打	三塁打	二塁打	打点	犠打	四死球	盗塁	三振	残塁
*規定打席数：試合数×1.3=32以上																
1	北野 雅	0.400	12	41	35	16	14	0	0	6	14	1	5	3	0	5
2	建部	0.395	17	49	43	11	17	0	3	5	13	1	5	5	1	12
3	居山	0.387	12	35	31	6	12	0	0	0	5	0	4	5	1	9
4	塩瀬 博	0.233	16	39	30	12	7	0	2	1	4	2	7	4	11	3
5	北野 博	0.197	21	78	66	13	13	0	0	1	3	1	11	14	9	16
6	永嶋	0.194	13	36	31	4	6	0	0	1	2	2	3	2	1	5
7	吉田	0.192	15	40	26	9	5	0	0	0	5	2	12	7	4	8
8	藤本	0.192	12	33	26	8	5	2	1	0	8	2	5	4	4	3
9	洪谷	0.180	19	61	50	11	9	0	0	2	8	1	10	5	6	14
10	乘松	0.153	20	64	59	10	9	0	1	3	6	0	5	10	3	11
11	内山	0.034	13	33	29	2	1	0	0	0	4	0	4	1	8	4
	坂井	1.000	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	大橋	0.500	9	29	24	14	12	3	1	3	8	0	5	8	1	6
	副島	0.500	2	4	2	0	1	0	0	0	0	0	2	1	1	2
	三浦	0.500	1	3	2	2	1	1	0	0	4	0	0	2	0	1
	徳光	0.400	4	12	10	1	4	0	0	0	0	0	2	0	0	5
	森田	0.333	4	6	3	2	1	0	0	0	1	0	3	0	0	2
	永田	0.286	6	14	14	1	4	0	0	0	1	0	0	0	4	2
	尾寄	0.278	9	21	18	1	5	0	0	1	6	0	3	2	6	7
	外山	0.250	2	4	4	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	岡本	0.250	1	4	4	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1
	宮嶋 功	0.214	6	15	14	3	3	0	1	0	0	0	1	3	1	3
	飯田 正	0.211	7	21	19	5	4	1	0	0	7	0	2	2	2	4
	宮島	0.125	4	8	8	2	1	0	0	1	0	0	0	1	2	0
	迫田	0.100	5	11	10	0	1	0	0	0	0	0	1	1	2	2
	鍵田	0.095	10	29	21	8	2	0	0	0	1	1	7	5	2	5
	鈴木	0.000	5	11	9	2	0	0	0	0	1	1	1	1	2	1
	八尾	0.000	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
チーム合計		0.237	24	704	591	144	140	7	9	24	102	14	98	88	74	132

1991年度 投手成績

順位	投手名	防御率	試合	勝利	敗戦	セーブ	回数	打者	被安打	四死球	奪三振	失点	自責点
1	建部	0.92	15	9	3	1	84.0	322	51	16	68	22	11
2	塩瀬	1.17	6	4	0	0	30.0	126	15	12	21	12	5
3	乗松	5.65	5	2	1	0	17.3	102	14	34	12	21	14
4	北野 博	2.05	3	2	1	0	13.7	63	8	11	5	10	4
5	洪谷	17.50	1	0	1	0	4.0	28	11	6	1	13	10
チーム合計		2.07	24	17	6	1	149.0	641	99	79	107	78	44

1992年度 打撃成績

順位	選手名	打率	試合	打席	打数	得点	安打	本塁打	三塁打	二塁打	打点	犠打	四死球	盗塁	三振	残塁
*規定打席数：試合数×1.3=32以上																
1	大橋	0.419	14	51	43	18	18	2	0	9	16	0	8	17	2	15
2	森	0.412	12	35	34	3	14	0	0	2	9	0	1	5	3	11
3	北野博	0.395	17	56	43	22	17	0	3	2	12	1	10	21	1	9
4	藤本	0.347	18	62	49	20	17	0	2	5	8	3	10	19	3	12
5	吉田	0.325	18	56	40	10	13	0	0	1	7	1	15	20	4	15
6	渋谷	0.302	24	66	53	23	16	2	3	6	19	2	11	11	10	10
7	永嶋	0.292	23	80	72	18	21	0	0	3	11	2	6	14	4	18
8	北野雅	0.271	16	61	48	15	13	0	1	3	10	1	12	15	0	16
9	建部	0.233	15	54	43	17	10	0	2	2	13	1	10	9	1	11
10	内山	0.219	16	35	32	5	7	0	0	0	2	1	2	0	6	4
11	乗松	0.208	18	54	48	15	10	0	1	4	3	1	5	7	8	8
12	八尾	0.194	11	32	31	5	6	0	0	0	2	0	1	6	10	7
13	塩瀬	0.156	15	40	32	11	5	0	0	2	3	4	4	5	9	4
	徳光	0.375	3	8	8	1	3	1	1	0	6	0	0	1	0	3
	前沢	0.333	5	14	12	4	4	0	0	0	5	1	1	5	1	1
	迫田	0.333	3	7	6	1	2	0	0	0	3	0	1	3	0	2
	宮島正	0.313	7	20	16	5	5	0	1	0	2	0	4	5	1	5
	飯田	0.231	5	15	13	2	3	1	0	2	2	0	2	3	1	4
	尾寄	0.222	2	11	9	3	2	0	1	0	1	0	2	0	1	2
	永田	0.111	8	22	18	2	2	0	0	0	0	0	4	2	9	4
	我如古	0.100	4	14	10	1	1	0	0	1	2	0	4	5	0	3
	居山	0.000	1	2	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	外山	#####	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
チーム合計		0.286	24	796	661	201	189	6	15	42	138	20	113	173	74	164

1992年度 投手成績

順位	投手名	防御率	試合	勝利	敗戦	セーブ	回数	打者	被安打	四死球	奪三振	失点	自責点
1	建部	1.81	10	5	2	1	54.0	216	44	5	32	23	14
1	塩瀬	1.51	8	5	2	0	37.0	152	20	15	23	20	8
3	北野博	4.26	5	3	0	0	23.0	114	23	22	10	22	14
4	迫田	8.17	3	1	0	0	6.0	37	8	12	6	8	7
4	我如古	0.00	2	1	0	0	5.0	18	3	3	4	0	0
4	前沢	0.00	1	1	0	0	3.3	10	0	0	0	0	0
7	吉田	12.57	1	0	0	0	1.7	14	1	7	2	4	3
8	乗松	6.56	4	0	2	0	16.0	94	14	28	7	25	15
8	渋谷	1.40	3	0	2	0	5.0	27	4	8	2	5	1
チーム合計		2.87	24	16	8	1	151.0	682	117	100	86	107	62

1993年度 打撃成績

順位	選手名	打率	試合	打席	打数	得点	安打	本塁打	三塁打	二塁打	打点	犠打	四死球	盗塁	三振	残塁
*規定打席数：試合数×1.3=26以上																
1	建部	0.438	12	36	32	12	14	0	2	1	11	0	4	6	3	6
2	迫田	0.400	10	31	20	10	8	0	1	2	8	2	9	4	2	4
3	永嶋	0.389	14	43	36	12	14	1	0	4	13	3	4	12	0	11
4	大橋	0.344	12	37	32	10	11	2	1	1	11	1	4	10	4	8
5	渋谷	0.326	18	51	43	16	14	1	0	2	12	0	8	9	6	7
6	我如古	0.270	15	46	37	10	10	0	1	2	8	0	9	9	5	10
7	森	0.263	17	40	38	8	10	0	0	1	6	0	2	4	0	5
8	北野	0.256	20	51	39	16	10	0	3	0	7	0	12	14	2	7
9	乗松	0.229	13	43	35	8	8	0	0	3	6	1	7	5	1	11
10	内山	0.225	18	45	40	8	9	0	0	0	3	1	4	1	9	6
11	北野	0.179	13	44	39	6	7	1	3	0	13	1	4	4	0	4
12	藤本	0.146	17	52	41	13	6	0	1	3	4	0	11	9	2	6
	前沢	0.333	3	4	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	神谷	0.294	8	18	17	4	5	0	0	2	3	1	0	1	0	3
	宮島	0.238	6	23	21	6	5	0	2	0	7	0	2	3	2	4
	吉田	0.200	2	9	5	2	1	0	0	0	1	1	3	1	1	2
	鈴木	0.154	4	14	13	7	2	0	0	0	2	0	1	2	1	1
	伊藤	0.154	4	13	13	1	2	0	0	0	1	0	0	3	3	3
	八尾	0.000	2	5	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	塩瀬	0.000	1	4	3	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	鍵田	0.000	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2
	飯田	0.000	1	3	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0
	増田	0.000	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
チーム合計		0.266	20	617	516	152	137	5	14	21	116	11	90	101	46	103

1993年度 投手成績

順位	投手名	防御率	試合	勝利	敗戦	セーブ	回数	打者	被安打	四死球	奪三振	失点	自責点
1	建部	1.75	9	4	3	0	48.0	209	38	9	34	23	12
1	北野	1.18	5	3	0	0	23.7	107	16	15	15	10	4
3	我如古	1.73	8	2	3	0	36.3	164	33	16	25	25	9
4	迫田	14.00	1	1	0	0	2.0	17	2	8	0	5	4
4	乗松	33.63	1	0	1	0	3.3	32	6	17	3	18	16
7	渋谷	1.75	2	0	0	0	4.0	20	1	7	4	1	1
8	塩瀬	1.75	1	0	0	0	4.0	18	5	2	0	2	1
8	吉田	0.00	1	0	0	0	2.7	11	1	1	0	1	0
チーム合計		2.65	20	10	7	0	124.0	578	102	75	81	85	47

1976年度～1993年度 通算打撃成績

順位	選手名	打率	試合	打席	打数	得点	安打	本塁打	三塁打	二塁打	打点	犠打	四死球	盗塁	三振	残塁
☆打席数200以上：試合数400×1/2																
1	大橋	0.379	103	336	290	104	110	15	9	27	86	2	44	99	13	77
2	建部	0.326	200	639	500	146	163	13	25	32	145	11	128	83	22	167
3	宮嶋功	0.320	110	334	275	92	88	9	10	17	77	8	51	81	21	60
4	榎並	0.307	54	200	166	52	51	5	4	8	39	2	32	47	14	44
5	北野雅	0.297	122	391	327	105	97	1	10	20	82	12	52	57	21	62
6	北野博	0.283	212	686	555	169	157	1	13	21	74	9	120	222	65	120
7	渋谷	0.270	258	769	648	190	175	16	25	44	161	15	106	123	86	146
8	奥	0.264	96	291	235	62	62	6	6	10	36	6	50	84	27	59
9	永嶋	0.263	216	645	560	116	147	2	6	40	94	18	67	137	33	139
10	徳光	0.260	205	629	512	150	133	17	10	39	114	7	110	149	58	139
11	飯田	0.252	81	248	206	44	52	5	1	11	38	4	38	28	25	54
12	松本哲	0.247	63	211	178	23	44	1	2	6	13	1	32	31	27	49
13	塩瀬	0.241	317	856	672	178	162	17	19	43	118	22	162	124	175	172
14	藤本	0.238	216	663	547	148	130	10	13	28	89	7	109	174	51	132
15	吉田	0.230	143	366	309	69	71	3	4	15	47	6	51	79	54	70
16	居山	0.222	164	495	388	93	86	2	4	11	45	8	99	97	50	94
17	金子治	0.214	101	295	266	38	57	1	1	9	38	3	26	40	60	48
18	鈴木	0.191	131	365	320	61	61	0	2	12	47	7	38	53	31	55
19	内山	0.145	218	499	441	49	64	0	5	6	48	11	47	22	100	69

☆打席数100～199

三浦	0.375	51	141	120	43	45	7	2	12	41	2	18	38	11	32
安藤	0.234	62	187	167	27	39	4	1	8	27	1	19	25	26	27
小林	0.194	62	194	165	27	32	3	2	10	30	1	28	28	47	35
乗松	0.179	59	183	162	37	29	0	2	10	15	2	19	24	17	31
鍵田	0.162	62	161	117	35	19	1	0	1	15	2	42	33	14	42
樋口	0.069	54	115	87	12	6	0	0	1	4	0	28	0	45	20

☆打席数50～99

尾崎	0.345	25	63	55	11	19	0	1	1	13	0	8	6	12	15
森	0.333	29	75	72	11	24	0	0	3	15	0	3	9	3	16
古川	0.283	21	56	53	12	15	0	1	1	5	0	3	10	5	9
野村尚	0.273	29	88	66	19	18	2	2	2	14	0	22	17	9	21
竹内	0.266	36	79	64	15	17	0	0	6	13	3	12	16	10	16
滝川	0.254	28	84	67	19	17	0	0	1	10	2	15	18	7	19
岡本	0.246	31	71	65	13	16	1	2	1	9	3	3	6	11	8
宮島正	0.236	23	62	55	15	13	1	3	1	10	0	7	12	7	13
我如古	0.234	19	60	47	11	11	0	1	3	10	0	13	14	5	13
金子克	0.229	40	90	83	10	19	1	1	3	10	2	5	13	17	18
P. Fraker	0.220	23	60	50	7	11	0	3	2	8	1	9	5	19	14
松本浩	0.212	44	98	85	17	18	0	0	3	17	7	6	7	13	18
浅井田	0.218	23	67	55	7	12	0	0	3	6	0	12	10	14	21
油田	0.176	29	99	74	20	13	0	1	3	9	0	25	15	21	24
吉武	0.195	20	50	41	10	8	0	0	3	6	1	8	7	10	9
加藤	0.169	26	69	59	7	10	0	1	3	8	1	9	6	19	15
鐘江	0.169	23	68	59	11	10	0	1	2	1	0	9	9	8	8

チーム合計	0.247	405	12193	10150	2452	2505	151	201	500	1804	198	1842	2220	1511	2387
-------	-------	-----	-------	-------	------	------	-----	-----	-----	------	-----	------	------	------	------

1976年度～1993年度 通算投手成績

順位	投手名	防御率	試合	勝利	敗戦	セーブ	回数	打者	被安打	四死球	奪三振	失点	自責点
☆投球回数100回以上													
1	建部	1.50	150	80	25	12	767.7	3025	498	163	758	278	164
2	塩瀬	1.85	150	78	31	3	723.7	3122	502	354	575	358	191
3	宮嶋 功	1.49	38	18	9	1	169.0	693	100	83	151	60	36
4	北野 博	2.49	40	16	6	1	160.3	748	123	122	88	107	57
5	金子 治	1.27	36	15	7	2	165.3	753	148	79	170	114	30
6	渋谷	2.29	38	11	7	3	128.3	582	82	98	102	74	42
7	鈴木	2.78	29	11	5	0	118.3	531	84	77	94	71	47

☆投球回数10回以上および勝敗関係投手													
	三浦	1.60	23	8	5	6	87.3	364	34	63	89	31	20
	竹内	2.59	8	4	1	0	27.0	124	17	25	23	16	10
	我如古	1.52	10	3	3	0	41.3	182	36	19	29	25	9
	乗松	8.59	10	2	4	0	36.7	228	34	79	22	64	45
	迫田	9.63	4	2	0	0	8.0	54	10	20	6	13	11
	榎並	3.71	7	1	2	1	28.3	132	20	24	22	23	15
	淵本	8.40	1	1	0	0	6.7	41	9	12	7	11	8
	前沢	0.00	1	1	0	0	3.3	10	0	0	0	0	0
	鐘江	2.33	1	1	0	0	3.0	14	2	4	0	1	1
	松本 哲	7.00	5	0	2	0	11.0	71	17	14	2	24	11
	大橋	1.40	3	0	2	0	10.0	51	7	11	7	6	2
	浅井田	4.42	1	0	1	0	6.3	36	2	7	4	5	4
	高木	3.00	1	0	1	0	4.7	22	5	4	3	3	2

チーム合計 2.09 405 255 115 31 2531.0 10895 1757 1277 2175 1306 754

1976年度～1993年度 通算打撃成績 (続)

選手名	打率	試	席	数	得	安	本	三	二	点	犠	球	盗	振	残
☆打席数15～49															
野村茂	0.467	7	25	15	8	7	0	0	1	3	0	10	3	1	9
横野	0.300	13	36	30	8	9	1	0	0	6	0	6	7	5	8
鬼頭	0.400	7	20	15	8	6	1	1	0	3	0	5	13	2	2
前沢	0.333	8	18	15	4	5	0	0	0	5	1	2	5	1	3
若泉	0.333	9	15	12	2	4	0	0	2	2	0	3	2	1	3
韓	0.308	12	31	26	3	8	1	1	0	9	1	4	5	6	7
迫田	0.306	18	49	36	11	11	0	1	2	11	2	11	8	4	8
神谷	0.294	8	18	17	4	5	0	0	2	3	1	0	1	0	3
藤方	0.267	5	15	15	2	4	0	1	1	3	0	0	0	4	2
外山	0.250	15	34	28	9	7	0	0	1	5	1	5	10	4	7
植山	0.227	8	25	22	1	5	0	0	1	4	0	3	2	5	6
山本	0.222	8	20	18	1	4	0	0	2	2	0	2	3	1	1
神原	0.212	11	44	33	9	7	0	0	2	2	0	11	8	5	7
永田	0.188	14	36	32	3	6	0	0	0	1	0	4	2	13	6
坂本	0.176	11	22	17	2	3	0	1	0	5	1	4	3	8	5
岡南	0.162	18	44	37	10	6	0	1	0	7	1	6	6	6	6
守屋	0.160	15	31	25	4	4	0	0	0	2	0	6	8	13	7
八尾	0.158	15	39	38	6	6	0	0	0	2	0	1	6	14	7
望月	0.095	10	24	21	1	2	0	0	0	0	0	3	1	8	5
田中	0.091	16	45	33	7	3	1	0	0	5	0	12	7	10	6
M. Rath	0.045	10	26	22	4	1	0	0	0	1	0	4	4	9	3
チーム合計	0.247	405	12193	10150	2452	2505	151	201	500	1804	198	1842	2220	1511	2387

1976~1993年度 球団通算打撃成績

年 度	打 率	試 合	打 席	打 数	得 点	安 打	本 塁 打	三 塁 打	二 塁 打	打 点	犠 打	四 死 球	盗 塁	三 振	残 塁
1976	0.205	3	89	73	8	15	1	0	4	8	0	16	6	8	21
1977	0.214	8	256	215	45	46	5	4	10	36	1	40	37	49	53
1978	0.176	15	443	363	59	64	3	6	10	41	2	78	95	100	88
1979	0.250	17	560	440	101	110	9	7	20	83	5	115	72	105	133
1980	0.217	24	769	632	132	137	7	7	30	92	4	133	123	112	169
1981	0.257	19	645	541	131	139	11	10	26	94	3	101	110	100	136
1982	0.243	22	706	597	148	145	16	14	27	111	4	105	111	89	130
1983	0.226	25	780	665	142	150	13	11	24	110	11	104	171	88	152
1984	0.242	26	783	616	184	149	14	16	35	138	10	157	167	85	149
1985	0.227	27	738	609	125	138	7	12	34	87	11	118	144	75	158
1986	0.265	30	836	686	191	182	14	13	47	140	29	121	208	116	152
1987	0.249	31	894	771	172	192	8	14	34	123	22	101	184	104	163
1988	0.268	32	991	833	193	223	7	17	51	152	24	134	176	95	199
1989	0.231	27	679	581	102	134	6	14	29	73	18	80	95	85	124
1990	0.279	31	907	760	222	212	12	18	31	160	9	138	159	106	160
1991	0.237	24	704	591	144	140	7	9	24	102	14	98	88	74	132
1992	0.286	24	796	661	201	189	6	15	42	138	20	113	173	74	164
1993	0.266	20	617	516	152	137	5	14	21	116	11	90	101	46	103
累 計	0.247	405	12193	10150	2452	2502	151	201	499	1804	198	1842	2220	1511	2386
平 均	0.247	23	677	564	136	139	8	11	28	100	11	102	123	84	133

1976~1993年度 球団通算投手成績

年 度	防 御 率	試 合	勝 利	敗 戦	引 分	セ ー ブ	回 数	打 者	被 安 打	四 死 球	奪 三 振	失 点	自 責 点
1976	0.70	3	2	0	1	0	20.0	78	5	7	27	5	2
1977	4.31	8	4	4	0	0	52.0	238	54	22	55	50	32
1978	2.45	15	7	4	4	0	100.0	440	71	59	109	56	35
1979	3.35	17	10	6	1	0	108.7	490	104	48	122	77	52
1980	1.57	24	17	4	3	4	160.3	690	93	108	145	62	36
1981	3.35	19	10	7	2	0	123.3	560	107	61	135	95	59
1982	2.76	22	12	6	4	2	147.0	635	110	77	142	88	58
1983	1.83	25	14	10	1	1	164.7	711	118	86	126	78	43
1984	1.37	26	17	8	1	0	158.0	638	97	63	145	59	31
1985	1.33	27	19	4	4	2	157.3	642	78	71	155	49	30
1986	1.61	30	22	6	2	6	178.0	778	110	105	193	76	41
1987	1.76	31	22	7	2	5	198.7	830	113	104	145	91	50
1988	1.68	32	23	6	3	5	204.3	854	134	94	164	88	49
1989	1.35	27	14	11	2	3	150.0	622	92	54	127	64	29
1990	2.04	31	19	11	1	1	185.0	790	153	64	111	98	54
1991	2.07	24	17	6	1	1	149.0	641	99	79	107	78	44
1992	2.87	24	16	8	0	1	151.0	682	117	100	86	107	62
1993	2.65	20	10	7	3	0	124.0	578	102	75	81	85	47
累 計	2.09	405	255	115	35	31	2531.3	10897	1757	1277	2175	1306	754
平 均	2.09	23	14	6	2	2	141	605	98	71	121	73	42

ついに第4冊目の球団誌を出すことが出来た。400試合を達成できたことは草野球を愛する者として、これに勝る喜びはない。

4冊目の球団誌を発行するに際して、従来とは大きく変わったことがいくつかある。これを列挙して見よう。

(1) 海外赴任選手の大幅な増加

このため、ついに海外赴任選手の特集を組むこととなった。

赴任中の多忙な時間を割いて原稿を送り、送金してくれた我がメンバーに心から感謝します。

また、多彩な原稿を提供頂いた現役選手の皆さんにもお礼申し上げます。

(2) 草野球界へのコンピューターの普及

この4年間でのパソコンの普及はまさに目覚ましい。

従来は電卓計算だったデータ集計も、今回は北野監督のMacintoshの活躍ではるかに短時間に且つ正確に行うことができた。

また、私もMacintoshを導入、4冊目の本文の殆どはパソコンでの版下制作となった。

(3) 藤本新会社の初仕事

藤本選手が独立して新事業を開始、メンバーの誰よりも早く社長になった。

今回、球団誌はこの新会社に制作・印刷をお願いした。

「(株)テキスト」の藤本選手と間宮部長に厚くお礼申し上げます。

94年のシーズンとともに、バニューダズは早くも500試合に向けて第一歩を踏み出した。「遊びに手を抜かない」バニューダズに栄光あれ。

400試合達成記念

BERMUDAS No.4

1994年2月発行

編集委員: 内山 秀敏、北野 博基、藤本 和彦

発行: 熱狂草野球軍団 バニューダズ

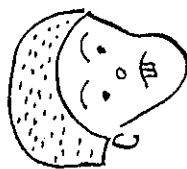
制作/印刷: (株)テキスト



London



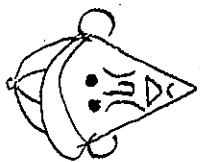
Amsterdam



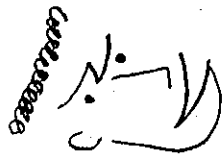
Stuttgart



Istanbul



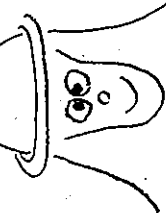
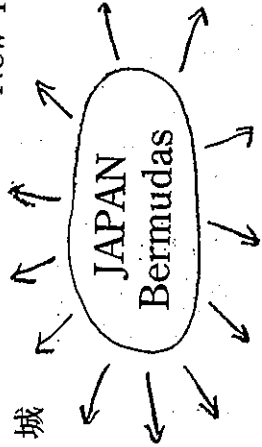
上海



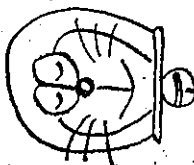
京城



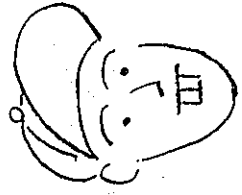
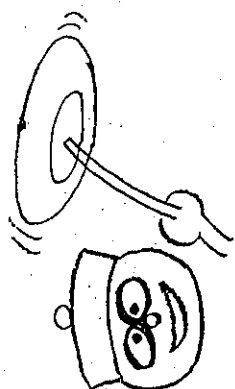
New York



Jeddah



香港



Singapore



世界に広げる草野球魂

バミューダス

94年2月